

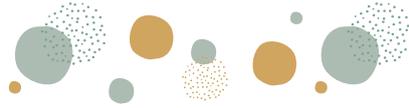
令和5年度

広島市  
第1層生活支援  
コーディネート

実践事例集



# はじめに



広島市では、市・区社会福祉協議会に2名ずつ、生活支援コーディネーターが配置されています。

新任生活支援コーディネーターも経験を積んだ生活支援コーディネーターも、日々地域団体やボランティアグループ、企業やNPO、専門機関など、様々な方の思いや情報をつなぎながら、支え合いの地域づくりに向けて奔走しています。

この実践事例集では、その試行錯誤の過程や現在進行中の取組を1冊にまとめました。小さな歩みであっても、様々な方とともに考えた過程を見える化することで、生活支援コーディネーターの力量のアップにつながるとともに、地域活動の価値の共有にもつながると考えております。

ご覧いただいたみなさまには、生活支援コーディネーターの役割や視点（戦略）を知っていただき、地域の「あったらいいな」の実現に向けて力を貸していただけましたら幸いです。

## ～略字表記～

※この冊子では、次の用語については（ ）内の表示とします。

- ・ 地区・学区社会福祉協議会（地区社協）
- ・ 区社会福祉協議会（区社協）
- ・ 市社会福祉協議会（市社協）
- ・ 地域包括支援センター（包括）
- ・ 生活支援コーディネーター（SC）
- ・ ボランティアコーディネーター（VCO）
- ・ 広島市住民主体型生活支援訪問サービス（住民主体型サービス）  
※「介護予防・日常生活支援総合事業」介護予防・生活支援サービス事業の訪問型サービスB。広島市から補助を受け、令和5年11月現在、市域41の地域団体が支援を実施しています。
- ・ 地域団体連携支援基金事業費助成金（地域団体連携支援基金）  
※広島市からの出捐金により令和3年度に新設された基金。地区社協と各種地域団体が連携した地域課題の解決に向けた取組に対して助成するものです。

# SCによる地域活動 ～ 一事例 ～

様々な「人」と「人」、「思い」と「思い」をつないで、  
「地域の助け合い」のための「あったらいいな」  
「できたらいいな」の応援をしています！



生活支援団体の勉強会の開催



サロン・カフェなどの支援と  
充実のお手伝い

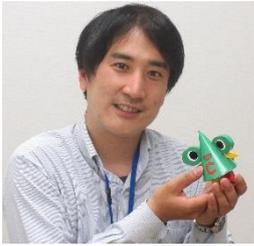


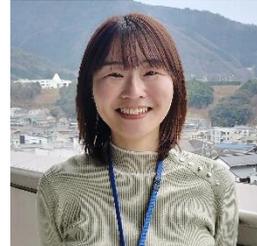
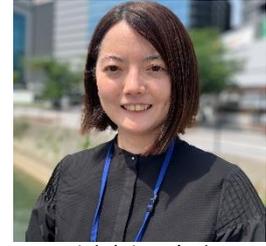
区域協議体の開催



企業の社会貢献と  
地域活動の結び付け

# 各区生活支援コーディネーターの紹介

<p>中区</p>	 <p>【担当地区】 袋町、竹屋、千田、本川 神崎、舟入、江波</p> <p>【ひと言 PR】 生活支援コーディネーター 1年生の和田です。 皆様と楽しみながら色々なこ とを考えていければと思います。</p> <p>わだ けんすけ 和田 謙介</p>	 <p>【担当地区】 白島、基町、幟町、中島 吉島東、吉島、広瀬</p> <p>【ひと言 PR】 今年度から生活支援コーデ ィネーターになりました、島谷で す。まだまだ不慣れではありま すが、どうぞよろしくお願いしま す。</p> <p>しまたに かいと 島谷 海渡</p>
<p>東区</p>	 <p>【担当地区】 牛田新町、牛田、早稲田 中山、尾長、矢賀</p> <p>【ひと言 PR】 引き続き、萩原と『ひがしおこ のみネット(区域協議体)』を よろしく願っています!!</p> <p>はぎはら たかゆき 萩原 貴之</p>	 <p>【担当地区】 福田、馬木、上温品、温品 東浄、戸坂城山、戸坂</p> <p>【ひと言 PR】 地域のみなさんの「できたら いいな」、「こうしたいな」等 をお手伝いできるように頑張りま す。</p> <p>ささき えいこ 佐々木 詠子</p>
<p>南区</p>	 <p>【担当地区】 荒神、大州、青崎、向洋新町 黄金山、仁保、楠那、宇品東 宇品西、元宇品、似島</p> <p>【ひと言 PR】 地域性を活かして、じんわり と、地道に、ちょっとした成功体 験を皆さんと一緒に喜び合 いながら、引き続き地域づくりに 取り組んでいきたいです。 よろしく願っています。</p> <p>くろせ ゆうこ 黒瀬 裕子</p>	 <p>【担当地区】 段原、比治山、皆実、翠町 大河</p> <p>【ひと言 PR】 皆さまの思いに寄り添った 地域づくりを心掛けていきたい と思っています。 引き続き、どうぞよろしく願 っています。</p> <p>おかざき さや 岡崎 咲綾</p>
<p>西区</p>	 <p>【担当地区】 己斐、己斐上、己斐東 草津・庚午南、鈴が峰 井口台、井口、井口明神</p> <p>【ひと言 PR】 「ここで暮らしてよかった」 誰もがそう思えるような地域 づくりを、皆さんと一緒に楽し く取り組みたいです。 あったらいいな♪を、ぜひお 聞かせください。</p> <p>みすみ きょうこ 三角 京子</p>	 <p>【担当地区】 大芝、三篠、天満、観音、南観音 山田、古田、古田台、高須</p> <p>【ひと言 PR】 毎回、皆さんとお話ができる事 が自分の楽しみであり、これが生 活支援コーディネーターのやりが いに繋がっています。今年度もど うぞよろしく願っています。</p> <p>よしむら しょうご 吉村 翔吾</p>
<p>安佐南区</p>	 <p>【担当地区】 古市、大町、毘沙門台、安東 安、上安、安北、安西、戸山 伴、伴東、大塚・伴南</p> <p>【ひと言 PR】 みなさんの胸に咲いている 情熱の真っ赤な薔薇を少しお 聴かせ頂けますか♪ その花瓶への水差しをご一 緒させてもらえたら嬉しいです。</p> <p>かくだ とおる 角田 徹</p>	 <p>【担当地区】 梅林、八木、川内、緑井 中筋、東野、原南、原、祇園 山本、春日野、長東、長東西</p> <p>【ひと言 PR】 みなさんとお会いして、お話 させていただくことが元気の源 になっています!みなさんの暮 らしに“ほっ”とする瞬間が増 えますように、これからも一緒 に考えさせていただけるとうれ しいです。引き続きどうぞよろ しく願っています。</p> <p>おだ ひびき 尾田 響</p>

安佐北区	 <p>【担当地区】 区全域</p> <p>【ひと言 PR】 今年度から新しく生活支援コーディネーターになりました。まちづくり、地域づくりは息の長い取り組みになると思います。一步一步着実に、一緒に地域の皆様と進めていけるよう頑張りますので、よろしくお願いします。</p> <p>やました なおき 山下 直樹</p>	 <p>【担当地区】 区全域</p> <p>【ひと言 PR】 地域の皆様と一緒に、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>おか さり 岡 沙莉</p>
安芸区	 <p>【担当地区】 畑賀・瀬野 矢野町・矢野南 みどり坂</p> <p>【ひと言 PR】 今年度より生活支援コーディネーターになりました。地域の皆様に教えて頂きながら様々なことに取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。^_^</p> <p>つむら みさき 津村 美咲希</p>	 <p>【担当地区】 船越・中野・阿戸 中野東</p> <p>【ひと言 PR】 今年度より生活支援コーディネーターになりました。地域の皆様に教えて頂き、たくさん地域に行かせて頂きたいと思っています。よろしくお願いいたします！</p> <p>かきざき まい 蠣崎 真衣</p>
佐伯区	 <p>【担当地区】 区全域</p> <p>【ひと言 PR】 好きな言葉は「出会いは一瞬、出会えば一生!!」地域のみなさんとの出会いを大切に、楽しく地域づくりをお手伝いさせていただきます。</p> <p>はこざき たいき 箱崎 太貴</p>	 <p>【担当地区】 区全域</p> <p>【ひと言 PR】 今年度より新しく生活支援コーディネーターとなりました。みなさまと一緒に、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいければと思います。よろしくお願いします！</p> <p>まえだ さやか 前田 彩花</p>
市	 <p>【担当地区】 市全域</p> <p>【ひと言 PR】 今年度から中区から市域コーディネーターになりました。これからも地域のみなさんが元気に活動できるようにしっかり応援していきます。</p> <p>かわなか まお 川中 真央</p>	 <p>【担当地区】 市全域</p> <p>【ひと言 PR】 人と人のつながりを大切に、地域のみなさん、専門職のみなさん等と一緒に、楽しく、地域づくりに取り組んでいきたいです。よろしくお願いいたします！</p> <p>いしい しずか 石井 静香</p>

### 活動の合言葉

「つくる・はぐくむ・つなげる」

通いの場

見守り

助け合い

3つの活動のつながりを意識して、地域活動の充実をお手伝いします！

### 広島市における「生活支援コーディネーター」の主な役割

#### ①地域のニーズと資源の把握及び情報発信

- 区域・市域での地域課題の把握
- 把握した資源や地域の好事例の情報発信

#### ②地域資源・サービスの創出・発掘及び充実のための支援

- 介護予防・居場所などの通いの場【ふれあいいいききサロン、地域高齢者交流サロン・地域介護予防拠点整備促進事業等】

#### ③見守り活動【近隣ミニネットワーク、高齢者地域支え合い事業等】

- 助け合い活動【ボランティアバンク、住民主体型生活支援訪問サービス等】

#### ④地域づくりに関わる関係者のネットワーク化

- 協議体の設置・運営（地域の「あったらいいな」の共有の場）
- 地縁組織やNPO・企業等の多様な主体との連携（企業の社会貢献等含む）

# 目次

## 生活支援体制整備事業

市

広島市における生活支援体制整備事業の推進・・・1  
～ワーキング会議と地域の支え合いを広げるための勉強会の開催～

## 協議体

市

市域協議体・・・・・・・・・・3  
～区域協議体との連動を意識した展開～

中区

中区区域協議体・・・・・・・・・・5  
～助け合い活動を中心とした社会資源情報の蓄積と共有～

東区

東区区域協議体「ひがしおこのみネット」・・・7  
～2年目の取組～

南区

南区区域協議体・・・・・・・・・・9  
～地区社協の力を最大限に活かすための  
「地区社協活動拠点交流会」の開催～

1.5層協議体 地域デビュー講座の開催・・・11  
～新たな担い手の発掘、育成を目指して～

西区

西区区域協議体・・・・・・・・・・13  
多世代交流の場づくり～担い手探し～③

安佐南区

安佐南区区域協議体の取組・・・・・・・・・・15  
～区内に広がる助け合い活動の輪～

安佐北区

安佐北区区域協議体  
「ケア」を世の光に！プロジェクト・・・・・・・・17  
介護講演会 地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～  
実施の取組

佐伯区

佐伯区区域協議体・・・・・・・・・・19  
～困りごと支援における“あったらいいな”を共有・実現～

## 助け合い

安佐南区

ボランティアバンク再構築プロジェクト会議  
緑井学区社協『お助け隊』始動！ . . . . . 21

安佐北区

住民主体型サービスに関する  
連携の円滑化に向けた取組 . . . . . 23

安芸区

住民主体型サービス実施団体の活動に  
参加したことでつながったこと . . . . . 25

## 通いの場

安芸区

SNSの活用  
～公式LINEで地域とつながる～ . . . . . 27

佐伯区

サロン講師一覧作成について  
～サロンのお役立ち情報誌作成に向けて～ . . . . . 29

## 見守り

中区

地域特性を生かした  
高齢者の見守り強化に向けた取組  
～白島いきいきシールキャンペーン～ . . . . . 31

## 協働した取組

東区

高校生とお喋りしながら悩みを解決！  
【Dボラ】スマホ相談会 . . . . . 33  
～多世代交流から生まれる「相互理解」の地域づくり～

西区

己斐東学区担い手養成講座  
防災を一緒に考える「つながり」活動講座  
学区社協・包括・区社協で . . . . . 35  
「共に協力して同じ方向を目指す」企画講座

## 広島市における生活支援体制整備事業の推進

### ワーキング会議と地域の支え合いを広げるための勉強会の開催

#### 事例概要

市区社協、包括・行政の生活支援体制整備事業担当者がそれぞれ不安や悩みを抱えながら、地域支援を行っている。それらの改善のために、令和4年から本格的に取り組んでいる生活支援体制整備事業ワーキング会議と地域の支え合いを広げるための勉強会について、令和4年度 実践事例集で報告した後の動きを報告する。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 担当者それぞれが感じている課題や思い等を出し、担当者同士で共有できる場づくり。
- 担当者からの意見を整理し、勉強会を企画・開催することで、事業理解やスキルアップの機会をつくる。
- 課題を整理し、行政と協議しながら、SCが地域支援をしやすい環境を整える。



## 取組の背景・課題



- 平成29年度に第1層SCが市・区社協に、平成30年に各包括に第2層SCが配置されたが、事業の理解不足や位置づけの難しさから、担当者それぞれが不安や悩みを抱えながら地域支援を行っている。また、第1層SCと第2層SC、実施主体である行政の三者が別組織であるが故の連携の難しさが課題となっている。
- それらの改善のために、令和4年度から市・区社協、包括、行政(担当課である市高齢福祉課)をメンバーとし、生活支援体制整備事業を考えるワーキング会議(以下、ワーキング)を開催。そこで現状の課題や改善のための取組等を企画し、社協・包括・行政が事業について理解を深めたり、共通認識を持ったりするための学びの場「地域の支え合いを広げるための勉強会」(以下、勉強会)を開催している。
- 改善案として出された意見を右図の3つのレベルに整理。  
令和4年度1年間の取組で前進はしたものの、すぐに解決できる課題ではないため、引き続きワーキングや勉強会を開催しながら、課題改善に向けて、取り組んでいる。

個人：スキルアップのための研修会等

組織：事業理解のための研修会等

行政：事業の位置づけの見直し等

改善案



## 取組の目的・ねらい

- SCが少しでも地域支援がしやすい体制を整えるための基盤づくりとして、各関係機関において事業理解や共通認識を深める。
- 担当者それぞれの不安や思いを出し合い、アイデアを“共感”できる場を創出し、連帯意識の醸成につなげる。
- それらを蓄積していくことで、必要とされる事業の見直し等の働きかけにつなげる。



# 内容・プロセス

「CAPDo(キャップ・ドゥ)」を用いて、計画的に展開。

<b>C</b> heck (現状把握・計測) 現状の問題点 などを把握・ 計測する	<b>A</b> ct (改善) 現状把握・計 測を元に改善 内容を立案す る	<b>P</b> lan (計画) 改善案を元に 具体的な施策 を計画する	<b>D</b> o (実行) 計画に基づき 業務を実行す る
---	---	--	--

令和4年12月以降の動きを掲載。以前の動きは令和4年度の実践事例集参照。

## ●令和4年12月26日 第4回ワーキングの開催【C】

- ・ 同年11月28日に開催した第4回(令和4年度第2回)勉強会の振り返りと今後の方向性を検討。
  - 令和4年8月に実施した担当者アンケートでは、社協に対して辛辣な意見もいただいたが、取り組んだ一連の研修会等は担当者の意見を反映したものにできた。
  - 第1層・第2層 SC の連携事例の共有、事業担当者以外にも事業理解を促す働きかけが必要。

## ●令和5年7月6日 第5回ワーキングの開催【A・P】

- ・ 令和4年度までの取組の振り返りを行い、令和5年度を取組等を検討。
  - 担当者の異動もあったため、改めて事業説明、広島市の目指す姿を共有する勉強会が必要。
  - ワーキングでの協議を今後事業の見直し等の材料にしていくためには、このワーキングの認知度を高める必要がある。また、現メンバーは所属・地域の偏りもあることから、次回勉強会でワーキングを紹介し、メンバーを募ることになる。

## ●令和5年8月28日 第5回(令和5年度第1回)勉強会の開催【Do】

- ・ 生活支援体制整備事業と協議体(講義とグループワーク)
  - 講義で事業理解を深めることができ、グループワークで他区・他所属の担当者との想いの共感と活動のヒントが得られた。
  - 8人がワーキングの見学希望。



グループワークでわいわいがやがや  
想いや取組を共有！

## ●令和5年10月2日 第6回ワーキングの開催【C】

- ・ 見学希望者にもお声がけし、第5回勉強会の振り返りと次回勉強会の内容検討。
  - 勉強会アンケート等からも第2層協議体にも位置づけられている「見守り」について、担当者の関心が高い。事業として取り組んでいるが故に「登録」ありきの見守りの形しか見えていない専門職もいるため、見守りをテーマに勉強会を開催する。  
その後、住民向けの研修会の開催も検討。



## 現時点での到達点(結果・効果など)

- 継続して取り組むことで、事業理解が深まり、前向きに取り組む意識が広まった結果、ワーキングメンバーが増えた。
- 社協・包括・行政と協議を積み重ね、担当者等からの意見を整理することにより、これまで踏み込むことができなかった「見守り」をテーマにした協議や勉強会の開催ができることになった。

## 今後の展望など

- 引き続きワーキングをしながら、担当者の意見を基に勉強会等を開催し、担当者同士の共感やスキルアップの機会、組織全体の事業理解を図る場、それらの積み上げを行っていく。
- 事業の見直しにとらわれず、現状や課題を整理し、事業の捉え直しをすることで、前向きに取り組むことができる部分もあると考えられる。まずは、「見守り」についての捉え直しに取り組む。



### 生活支援コーディネーターの思い

想定よりもワーキングメンバーが増え、これまでみなさんと取り組んできたことは無駄ではなかったと、少し明るい気持ちになりました。  
課題は山積みで、すぐに解決できるものではありませんが、今後もワーキングメンバー等と協議しながら、担当者の想いを大切に、SCが地域支援をしやすい環境づくりに取り組んでいたいと思います。

石井

# 広島市社会福祉協議会

## 市域協議体

### ～区域協議体との連動を意識した展開～

#### 事例概要

市域協議体のこれまでとこれからのについて SC として検討し、取り組んだ事例。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 市域協議体事務局として開催準備・調整。
- 参画団体との意見や想いのすり合わせと情報交換。
- 区 SC との連携。



### 取組の背景・課題



広島市の協議体は1層協議体：市域協議体【事務局：市社協】・区域協議体【事務局：区社協】、2層協議体（※高齢者地域支え合い事業運営委員会）【事務局：包括】の3つエリアごとにあり、相互に連携・協働していくことはもちろんのこと、その上でそれぞれの協議体から積み上げて進めていくことが求められている。※地域における高齢者の見守りネットワークについて話し合う委員会。

市域協議体を立ち上げた平成29年度時点には区域協議体があまり立ち上がっていないことから、2層協議体が高齢者地域支え合い事業に位置づけられていることから高齢者の見守り活動についての話し合いに終始し、地域課題の協議の場となり



コロナ禍での工夫した取組、つながりをまとめました

にくい実情もあり、当初は年度ごとに市域の課題であると感じたことをテーマに協議体を運営してきた。

通いの場をテーマに開催した際は実務者、専門職と協議を行い、広島市へ要望書を提出した。協議の中で市域協議体参画団体の(株)セブン-イレブン・ジャパンから商品寄贈の取組紹介があり、数年を経て商品寄贈協定締結につながった。コロナ禍においては、市域協議体として、地域団体へのアンケートを実施し、一番多い要望であった非接触型体温計の斡旋を実現。

また、コロナ禍の取組をまとめた「ひろしまえとこつながり活動集」も作成した。少しずつではあるが市域協議体での協議を形にしながら進めてきた。



実務者・専門職とで通いの場の現状と課題を共有しました！

令和5年度からは区域協議体の取組が充実してきたため、積み上げや連動を意識した市域協議体の運営について検討することとした。



### 取組の目的・ねらい

- 区域協議体との連動を意識する。
- 市域協議体参画者へ市域協議体の運営に対する意見を聞き、取組を検討していく。
- 広島市生活支援体制整備事業のポイントである「地域共生社会の実現に向けて、共助の精神で見守り支えあうことができる地域づくり」を実現していくための市域協議体の役割やあり方について考えていく。



# 内容・プロセス



## ●令和5年6月～7月 市域協議体参画団体事前訪問

参画団体からは到達点に分かりにくい、参画者として何を求められているのか不明確、話し合う内容を決めてもらう方が分かりやすい、何も積みあがっていない会議体になっているという厳しい意見や2層協議体と区域協議体が連動して、意見を吸い上げたことを市域協議体で協議し、市へ提言する場としての期待、他地域の取組を聞くことで自分たちの活動にヒントとなるため事例を共有したいという声をいただく。事前訪問をしたことで会議の場では聞くことができない率直な意見をいただいた一方で市域協議体の運営の難しさや迷いが生じてきた。

## ●令和5年8月3日 第7回(令和5年度第1回)市域協議体の開催

令和4年度のテーマとして取り組んだ「地域の困りごと支援」について完成した「困りごと支援実施団体一覧表」を見ながら、団体の活動や想いを共有。専門職からは「サービスだけでなく、地域の方や団体と協力することで地域で暮らし続けることを支えることができる。団体の具体的な活動範囲、どこで情報が分かるのかなど詳細が知りたい」との意見があり、継続して地域の困りごと支援実施団体について情報を更新していくこととした。



困りごと実施団体一覧

また、令和5年度の市域協議体の取組について参画者に意見を求める。物事を動かすためには課題を整理し、優先順位をつけることが必要、区域協議体で話し合った内容を吸い上げ、協議していく段階にきているのではないかという意見をいただく。



第7回市域協議体

### ⇒ 令和5年度の市域協議体の取組を次の2つに設定

- ①区域協議体からの提案・好事例の共有と解決策の協議・検討
- ②「地域の困りごと支援実施団体一覧表」のブラッシュアップ

## ●令和5年11月 第7回市域協議体に欠席された参画者への訪問

協議内容と今後の展開について情報共有をする。

## ●令和5年11月27日 第8回(令和5年度第2回)市域協議体の開催

テーマを「担い手」として、西区区域協議体からの取組報告と市域協議体への提案を受け、グループワーク(アイデア出し)を行う。グループワークで出た意見をもとに今後の計画を立案し、優先順位を決めて取り組んでいく。



第8回市域協議体  
「担い手」について現状、工夫、  
アイデアを出し合いました

## 現時点での到達点 (結果・効果など)

- 市域協議体参画者への事前訪問を通じ、率直な意見を聞くことができ、今後の市域協議体の展開が少しずつではあるが見えてきた。
- 第2回の市域協議体では、区域協議体からの提案をそれぞれの参画者の立場で協議することができ、アイデア出しでは活発な意見交換ができた。

## 今後の展望など

- アイデアを整理し、市域として取り組むべき課題を明確にし解決に向け動いていく。
- 今後も区域協議体、2層協議体の連動を意識した協議体運営を行う。
- 参画団体と密に連携を図り、協働して課題に向き合っていく。



### 生活支援コーディネーターの思い

市域だからこそ考えられることを意識しながら、今後も参画団体、区SC、2層SC、行政と協同し、一つでも実現ができるように取り組んでいきます。 **川中**

## 中区区域協議体

～助け合い活動を中心とした社会資源情報の蓄積と共有～

### 事例概要

「助け合い活動」の推進を図るため、平成31年度から区域協議体で取組を開始。助け合い活動を中心とした社会資源情報の蓄積と共有を図るために、令和3年度から取り組んでいる区域協議体作業部会での協議、動きについて報告する。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地区社協、関係団体、協議体参画団体との連携と後方支援。



## 取組の背景・課題

中区では平成31年度に中区区域協議体を設置。区内では、通いの場、見守り活動は積極的に取り組まれているが、【助け合い】活動は不足しているため、区域協議体では、【助け合い】活動の充実を図ることを目的とした。

当初は新たな助け合い活動団体の立上げを目指したが、構成メンバーから今一度、区域協議体とは何をする場なのかの共通認識が必要ではないかという意見が出たため、活動団体の立ち上げを一旦保留とし、協議体について理解を深めた後、取り組むべき課題を協議した。その結果、中区内の助け合い活動を中心とした社会資源情報の蓄積と共有をテーマにすることになった。

区域協議体にて  
中区で取り組むべき課題を協議



## 取組の目的・ねらい

- 専門職や地域の担い手がバラバラに持っていた情報を集約し、必要な時に誰もが素早く引き出せる仕組みを整える。
- 社会資源情報の蓄積・共有するツールとして、地域資源マップを作成する。作成を通して、地域住民と専門職等で情報共有を図り、新しいつながり、協力体制を構築していく。

地域団体と専門職による  
マップ作成の協議



## 内容・プロセス

- 令和3年度【第1回協議体(書面開催)】

コロナ禍で会議の開催ができない状況であったが、「区域協議体の取組を進めていきたい」という思いから、書面にて取組内容を提案。モデル地区でマップ作成の手順等を確認し、区域に範囲を広げる方が確実だと考え、一定数の地域資源が集約し、また、「地域の気づきや困りごとが集まる場所」として地区社協

活動拠点での相談機能強化に取り組まれていた神崎学区をモデル地区に選定。作業を進めやすくするため、区域協議体とは別に作業部会を設けることとした。作業部会のメンバーには、区域協議体から神崎学区に関わりの深い構成団体や地域資源マップの作成経験がある構成団体(専門職)を選出。また、神崎学区社協や中区地域支えあい課地区担当保健師にも参画してもらった。

●令和4年度【第1～4回協議体(作業部会)開催】

作業部会で配布先、印刷、予算等について具体的な協議を重ね、令和4年度末にマップが完成する。

●令和5年度7月【第1回協議体開催】

神崎学区社協から取組成果を報告してもらう。

「今後も地域住民や地域団体からの意見を反映しつつ、更新・活用できるものを目指していく」、「データは蓄積とともに更新が重要であり、資源情報を通じて、過去から未来につながる地域状況の認識にもつながる」、「作業を通じて深まった専門職団体や地域団体のつながりは、大きな成果のひとつ」などの報告があった。

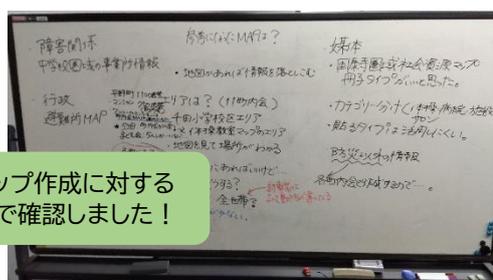
また、各団体への協力依頼・意見聴取等を通じ、地域一丸で目指すべき地域資源マップの形を検討していくことが重要であることも話された。

地域資源マップの作成を通じ、地域団体との関わり、つながりを増やすことを期待し、令和5年度は千田地区をモデル地区に選定した。



●令和5年9月、11月【第1～2回協議体(作業部会)開催】

千田地区で資源マップを作成するにあたり、誰を対象に、どのような目的で作成をするのか、掲載する情報等について協議。地区社協や包括、中区地域支えあい課、中区障害者基幹相談支援センターと何度も目線合わせや作業部会の進め方について協議を重ねた。



現時点での到達点 (結果・効果など)

協働して作業に取り組むことによる団体間のつながりが強化された。

今後の展望など

地域資源マップ作成の取組過程で強化された団体間のつながりを生かし、協働して地域の課題解決にも取り組んでいけるように、働きかけたい。



生活支援コーディネーターの思い

助け合い活動の充実を目的として地域資源マップの作成に関わる中で、作業を通じて、団体間の協働作業による関係強化の効果が非常に大きいことを実感しました。団体間の協働は、地域の課題解決にあたり不可欠な要素であり、協議体はそのつながりづくりの場にもなるよう取り組みます。

和田

## 東区区域協議体「ひがしおこのみネット」 ～2年目の取組～

### 事例概要

昨年度のグループワークで多く挙がった「担い手」不足の課題解決のため、担い手確保をテーマにした研修会を実施。昨年度未実施であった「集いの場」へのフィールドワークを実施。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 社会資源の創出や既存の活動の拡充につながる、研修会やフィールドワークの開催。
- 区を越えた交流となるフィールドワークの調整。



### 取組の背景・課題

区域協議体の取組1年目の昨年度、地域での課題を抽出し「担い手」「生活支援」「移動」「集いの場」をテーマとして取り組むことが決定した。その中で「担い手」「生活支援」「移動」の課題について先駆的な取組をしている地域へのフィールドワークを実施。フィールドワークをとおして「自分の地域で取り入れたいと思ったこと」を共有。4つのテーマのうち「集いの場」についてのフィールドワークが未実施であった。

また、地区社協からは主に地域福祉推進委員が参画メンバーになっており、いろいろな役割を兼任して多忙な方が多いため、ひがしおこのみネットを既存の会議等と兼ねて開催することを検討していた。



令和4年度第3回ひがしおこのみネットの様子  
「自分の地域で取り入れたいと思ったことの共有」をテーマにグループワークを実施



### 取組の目的・ねらい

- 「担い手確保」について学ぶ機会を設け、情報共有を行う。その学びをそれぞれの地域で活用してもらえよう促す。
- 昨年度実施できなかった「集いの場」へのフィールドワークを実施する。また、他区の先駆的な取組や工夫などを情報共有し、他区のよい取組を東区に取り入れる。



### 内容・プロセス

- 令和5年4月 事務局会議 開催  
・年間スケジュールの共有。
- 令和5年6月16日 令和5年度第1回ひがしおこのみネット 開催  
・担い手不足の課題解決アプローチとして「地域活動の担い手確保について」をテーマに研修会を実施。

区社協主催の「福祉のまちづくり講座」と兼ねて開催したことにより、参画メンバー以外の地区社協役員等にも多く参加してもらえた。

・昨年度のフィールドワークの取組を通じて、東区在住の比治山大学講師 中村孝先生とのつながりができたことにより、今回研修会の講師を依頼することとなった。担い手確保について、心理学の視点から活用できる理論や手法について講演いただいた。

●令和5年6月 事務局会議 開催

・第1回ひがしおこのみネットの振り返りと、今後の進め方について共有。

●令和5年10月10日、17日 令和5年度第2回ひがしおこのみネット 開催

・昨年度未実施だった「集いの場」のフィールドワークとして、安佐北区亀山の「一般社団法人まちづくり四日市役場」を訪問し、取組状況を伺う。東区の地域福祉推進委員連絡会も兼ねて開催。

・地域に開けた拠点であること、多世代多分野への支援の視点、行政や多機関の専門職と連携した相談対応の仕組みなどを学んだ。

●令和5年10月 事務局会議 開催

・フィールドワークの振り返りと欠席者へ情報共有を行い、多機関連携による相談対応の仕組み『合同相談会』を東区でも実施できるとよいという目標を共有することができた。



令和5年度  
第1回ひがしおこのみネットの様子  
中村先生に講演いただく



令和5年度第2回ひがしおこのみネットの様子  
一般社団法人まちづくり四日市役場の  
大島理事長より取組状況を伺う



両日合わせて41名が参加

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 昨年度から今年度にかけて実施したフィールドワークや研修会を通じて、多くのヒントや気づきを得た。
- 得たヒントや気づきを参加者が持ち帰り、所属組織の中で共有。現在、東区の様々な団体から中村先生への講師依頼が来ており、担い手確保の理論や手法が広がっている。

## 今後の展望など

- ひがしおこのみネットで共有してきた内容やフィールドワークをとおして、東区内でも取り入れることができることについて具体的に検討していく。
- これまでの取組がきっかけとなって創出された社会資源を、整理する。
- 3か年ごとに区切りを設けており、来年度が第1期最終年であるため、様々な「社会資源の創出」を意識しながら実施していく。また、社会資源の創出に該当する「取組」や「つながり」を第1期の成果として蓄積していく。



### 生活支援コーディネーターの思い

今年度は研修会やフィールドワークなど、参加者の皆さんの活動のヒントとなるような取組を行いました。第3回も今年度開催予定であり、振り返りや、次年度に向けての方向性を確認・共有する予定です。最終年度に向けて、地域のみなさんの声を聞きながら社会資源の創出に向けて進めていきます。

佐々木

# 南区社会福祉協議会

## 南区区域協議体 ～地区社協の力を最大限に

### 活かすための「地区社協活動拠点交流会」の開催～

#### 事例概要

地域を超えて、地区社協の活動拠点運営をする上での悩みや、工夫していること等の意見交換を行い、協議体のテーマである「担い手育成」に即して、地域活動における人材確保につなげることを目的に、「地区社協活動拠点交流会」という形で開催した。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 活動者に光を当てた情報発信や広報活動を行い、共感を広める。
- つながる、つなぐ場を創出し、地域で支え合うことの意識の醸成を深める。

## 取組の背景・課題

南区区域協議体では、5年後、10年後も安心して住み続けられるまちを目指して、「担い手育成」をテーマに活動中である。活動の基本は、毎月開催する区域協議体担当者会議(オンライン)で、包括の高齢者地域支え合い事業担当者及び地域支えあい課担当者、南区社協で協議体運営に関する様々な情報交換、意見交換を行っている。協議体設置当初は、協議体そのものへの理解促進や基本メンバーのやらされ感の払拭に注力していたが、近年では、助け合い活動の必要性について理解を深めるために、認知症を正しく理解するための「VR 認知症体験会」や、地域交流の場である「なだの朝市見学ツアー」を開催するなどして、会議体の形式にとらわれない楽しめる協議体を意識して運営してきた。

また、令和3年度から「地区社協活動拠点活性化支援事業」がスタートし、現在南区では、16地区社協のうち、11地区社協がこの事業に取り組んでいる。地域からSCへ拠点運営に関する問合せや相談が増えていることなどから、SCとして地域の大きな変化を感じ、地域のニーズに応じて、この度「地区社協活動拠点交流会」という形で協議体を開催した。



当日の様子

## 取組の目的・ねらい

- 拠点において、住民同士がつながり合い、誰もが気軽に相談できる体制づくりを促進する。
- 各地区社協の拠点運営状況や取組について情報共有をすることで、拠点運営の理解が広がり、地域活動における人材確保につなげる。
- 困りごと相談の受け入れ先として、生活支援の有償活動の立ち上げなど、地域における助け合い活動の推進を図る。
- 各地区社協の拠点の活動情報や取組について掲載した冊子を作成し、今後の拠点運営に役立てる。



## 内容・プロセス

以下の内容で、基本的には毎月開催の区域協議体担当者会議での話し合いをもとに、令和5年9月21日の区域協議体開催に向けて、地区社協役員や基本メンバーの方々とも適宜相談や打合せを行いながら準備を進めていった。

- 令和5年4月 専門職で前年度の区域協議体の振り返りと今年度の区域協議体の企画の検討を行う。
- 令和5年6月 令和5年度第1回区域協議体の開催日時、参集者、内容等及び、「地区社協活動拠点の取組紹介冊子」の作成について南区社協から専門職へ提案し、承認を得る。
- 令和5年7月 区域協議体での活動発表団体の選出。  
⇒選出団体への依頼と打合せ及び発表資料の作成開始。  
地区社協活動拠点情報シート作成のための地区社協訪問を開始(一部包括担当者同行)。
- 令和5年8月 区域協議体当日に向けての最終確認(専門職、活動発表者)。
- 令和5年9月 令和5年度第1回 区域協議体開催  
参加者:協議体基本メンバー、地区社協役員・拠点スタッフ、包括地域支えあい課、区社協  
計65名

### 【内容】地区社協活動拠点交流会

1. 地区社協活動拠点についての説明(拠点の機能や歴史、助成金の紹介など)
2. 活動発表(拠点開設への思いや運営上の工夫点、相談対応の事例など)
  - ① 向洋新町地区社協
  - ② 大河地区社協
3. グループワーク、発表  
テーマ①「活動する上で難しいと感じること」  
テーマ②「こんなことがしてみたい」「こんな話が聞いてみたい」等今後してみたいこと

活動者の発表の様子



## 現時点での到達点 (結果・効果など)

- 「地区社協活動拠点の取組紹介冊子」を作成したことで、協議体に参加できなかった拠点スタッフにも拠点運営の理解が進んだ。
- 協議体を機にボランティアバンクの再始動に向けて話し合いを始めた地区社協があり、地域づくりの方向性の共有ができた。
- グループワークを通じて、地域を超えてのつながりが広がり、継続開催への要望が寄せられた。



地区社協活動拠点の取組紹介冊子

## 今後の展望など

- 地域の様々な情報や課題を共有する場として、継続的に協議体を開催していくことで、拠点の活性化を行うとともに、困りごとの支援を通じて、住民同士がつながり、広がったネットワークを活用した課題の解決や、ボランティアバンクの立ち上げなど新しい活動の創出につなげていきたい。



### 生活支援コーディネーターの思い

地域愛にあふれた皆様方の「思い」は、世代や分野を超えて大きな力となっています。この「思い」を大切に、実現に向けてのお手伝いを続けていければと思います。

黒瀬

## 1.5 層協議体 地域デビュー講座の開催

～新たな担い手の発掘、育成を目指して～

### 事例概要

南区区域協議体（第1層協議体）では、「担い手育成」をテーマに掲げている。

この度、段原包括圏域の1.5層協議体において、地域での新たな担い手の発掘や育成の手段として、地域デビュー講座を企画、開催した。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 他地域の好事例を共有し、地域デビュー講座の開催に向けた協議を行う。
- 講座終了後、講座参加者が地域活動につながるための働きかけを行う。



### 取組の背景・課題

南区では、「担い手育成」をテーマに、区域協議体と南区内の各包括圏域の1.5層協議体を同時並行で進めている。

1.5層協議体では、各圏域の特性に合わせた内容で実施しており、段原包括圏域では、令和4年度からの新たな取組として、段原包括から「地域デビュー講座」の開催の提案があった。退職後の男性や、地域活動をしたいという思いはあるが地域につながっていない方など、潜在的な地域の担い手を発掘することで、地域での新たな担い手育成につなげていくことができるのではないかという話になり、1.5層協議体の場で「地域デビュー講座」の企画を行うこととなった。

また、アイデア出しや場所の提供で、段原公民館にも協力していただけることとなった。



### 取組の目的・ねらい

- 企画者側に協議体の基本メンバーである地域の方に入っていたことで、住民の視点や意見を取り入れながら企画を行う。
- 入り口は入りやすく、関心度の高い内容として「コーヒー講座」を開催し、まずは参加者に楽しんでいただきながら、横のつながりをつくっていく。
- 「コーヒー講座」を入り口に、地域で行われている地区社協や町内会の活動について知ってもらう。
- 講座の受講をきっかけに地域とつながることで、新たな地域での担い手の育成を目指す。

CAFE 洗いな大人の趣味講座  
～地域のお宝講師を迎えて～  
コーヒーまつわる知識や、自宅で作れる本格コーヒーの抽出方法について学んでみませんか？  
講師：珈琲焙煎教室ann 山本 麻子 氏  
開催場所：段原公民館1階 実習室  
参加費：500円/回  
持参物：手拭きタオル、(必要な方のみ)エプロン

プログラム

第1回目 6月17日(土) 10時30分～12時 生豆から焙煎を 楽しむコーヒー作り	第2回目 7月23日(日) 10時30分～12時 美味しいコーヒーの 入れ方	第3回目 8月5日(土) 10時30分～12時 ブラックでも飲める 美味しい アイスコーヒー作り
第4回目 9月9日(土) 10時30分～12時 焙煎度の違う コーヒーの飲み比べ	第5回目 10月8日(日) 10時30分～12時 世界のコーヒー 飲み比べ	

広報チラシを作成！基本メンバーが声掛けを行い、参加者を募りました！



## 内容・プロセス

- 令和4年12月19日 令和4年度第1回 段原包括圏域 1.5層協議体 開催
  - ・ 地域デビュー講座開催に向け、講座の目的を共有し、内容の大枠を決めた。
  - ・ 講座の講師は、段原包括圏域にあるコーヒー焙煎教室の方が引き受けてくださることとなった。
- 令和5年2月5日 コーヒー講座事前体験
  - ・ 関係者のみでコーヒー講座を受講し、今後の取組に向けて感想や気付きを共有した。
- 令和5年3月2日 令和4年度第2回 段原包括圏域 1.5層協議体 開催
  - ・ 2月5日に受講したコーヒー講座を参考に、講座の具体的な内容や参加対象について話し合った。
- 令和5年6月5日 令和5年度第1回 段原包括圏域 1.5層協議体 開催
  - ・ 講座開催に向けた最終打合せを行った。
- 令和5年6月17日～10月8日「渋い大人の趣味講座(地域デビュー講座)」 開催
  - ・ 5回シリーズで、地域デビュー講座を開催。63名が参加。
  - ・ 講座最終回には、今後の活動の意向についてアンケートを実施。
- 令和5年11月6日 令和5年度第2回 段原包括圏域 1.5層協議体 開催
  - ・ 講座終了後の振り返りと、今後の方向性について関係者で話し合った。
- 令和5年11月18日「渋い大人の趣味講座(地域デビュー講座)」 振り返り
  - ・ 講座参加者と一緒に、今後の活動について話し合う場を設けた。



和気あいあいとした雰囲気  
コーヒーについて学びました♪

講座最終回に集合写真を撮影！  
みなさんステキな笑顔です😊



## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 段原包括圏域 1.5層協議体で企画した講座が形となり、5回シリーズで地域デビュー講座を開催することができた。
- 講座の回数を重ねるにつれ、参加者同士の親睦が深まり、新しいつながりもできた。
- 講座最終回に実施したアンケートでは、多くの参加者から「今後地域で活動したい」という声を聴くことができた。

## 今後の展望など

- 地域で活躍する「担い手の育成」を意識しながら、参加者の想いを形にしていく。
- 次年度以降もこれまでの流れが途切れず、継続できるよう、支援していく。



### 生活支援コーディネーターの思い

協議体のメンバーの方々をはじめ、公民館、講師の方など、様々な方の協力があり、講座の開催までたどり着きました。

これからも、参加者の方々の想いに耳を傾け、みなさんの想いを形にしていくことを意識していきたいです。

岡崎

## 西区社会福祉協議会

# 西区区域協議体

## 多世代交流の場づくり～担い手探し～③

### 事例概要

西区では、令和3年度から「多世代交流の場づくり～担い手探し～」というテーマで区域協議体を進めている。令和4年度以降は「人」「事例・イベント」「場所」に焦点を当て、空き家活用や企業の地域貢献について学ぶ機会を設けた。各回でグループワークを行い、各地区に多世代交流の場をつくるために取り組んだ事例を報告する。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 参画メンバーの意見を参考に、多世代交流の場づくりのための学びの機会を設ける。
- 企業や専門学校とのつながりをつくる機会を提供する。
- 西区だけでは解決できない課題を市域協議体に提案する。

## 取組の背景・課題

令和3年度の区域協議体において、テーマを「多世代交流の場づくり～担い手探し～」に決定し、参画メンバーと協議を進めている。令和4年8月に開催した第4回区域協議体のグループワークにおいて、多世代交流の場をつくるためにメンバーが学んでみたいことを、「人」「事例・イベント」「場所」にまとめた。令和5年度は、この3つのキーワードに焦点を当て、学びの機会を設けることとした。

## 取組の目的・ねらい

- 「場所」について、地域の空き家を様々な地域活動や多世代交流の場としての活用できないか検討する。
- 多世代交流の場づくりのヒントとして、企業や専門学校による地域の社会貢献の取組について話をお聞きし、一緒にどんなことができるか考える。

## 内容・プロセス

令和5年 西区内6包括、区地域支えあい課、区社協でワーキングの開催

5月 空き家活用について区地域起こし推進課へ相談

6月 第6回区域協議体の開催

7月 ワーキングの開催

株式会社ヤクルト山陽と打合せ

8月 株式会社フレスタホールディングスと打合せ

広島医療専門学校広島校と打合せ

第7回区域協議体の開催

9・10月 市域協議体打合せ

11月 市域協議体に「担い手探し」について議題を提案



グループワークの様子

## 【第6回区域協議体】

空き家等を活用する際に利用できる制度や補助金、他区の空き家等活用した事例について、区地域起こし推進課から説明いただいた。またメンバーからも各地区での空きスペース・空き家の活用事例を紹介。

→ 空き家は個人の資産であることや、管理が大変であると分かり、空き家の活用は難しいと感じるメンバーが多かった。しかし、企業が地域社会貢献として、お店の空きスペースを貸してくれているとの声もあったことから、終了後事務局等で検討し、第7回区域協議体では企業等の社会貢献の取組について聞くこととなった。



【第6回区域協議体】  
空き家活用について学び中

## 【第7回区域協議体】

企業・専門学校の地域貢献について、株式会社フレスタホールディングス、株式会社ヤクルト山陽、学校法人 朝日医療学園 朝日医療専門学校 広島校に地域貢献事例の紹介をいただく。

→ 各企業・専門学校の方から地区の会議で地域貢献事例のお話や、地域のイベント・サロン活動への支援をいただくことにつながった。



【第7回区域協議体】  
朝日医療専門学校広島校の発表



【第7回西区区域協議体】  
株式会社フレスタホールディングスの発表

## 【市域協議体への提案】

・これまでの区域協議体での取組を踏まえて、西区域に限らず広く市域の協議体で、話し合いをしてほしいことについて参画メンバーにアンケートを実施。  
・アンケートで出てきた意見を「担い手確保」「居場所づくり」「買い物難民」「災害時の連携」の5項目に分けた。このうち、もっとも意見が多かったのが「担い手確保」だったため、「地域住民」が新たな「担い手」になれる仕組みについて、市域協議体で協議してもらうことを提案することになった。

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 多世代交流の場づくりについて「人」「事例・イベント」「場所」に関する学びの機会を設けることで、発表いただいた企業・専門学校とメンバーがつながることができた。
- これまで区域協議体で協議をしてきた「担い手探し」について、西区だけでは解決できない課題として市域協議体での検討を提案することができた(市域協議体については、3ページ参照)。

## 今後の展望など

- 市域協議体で出されたアイデアを第8回区域協議体で、メンバーと共有し、区域協議体で取り組めそうなことを検討する。



### 生活支援コーディネーターの思い

多世代交流の場づくりは、地域の担い手不足の課題解決につながる1つの取組だと思います。今後も、みなさんとどんな取組ができるか検討していきたいです！

吉村

# 安佐南区社会福祉協議会

## 安佐南区区域協議体

### ～区内に広がる助け合い活動の輪～

#### 事例概要

安佐南区区域協議体では、住民主体型サービスをはじめとする助け合い活動について協議を重ねている。この度は、住民主体型サービス実施団体紹介冊子の作成を通じた活動の振り返りと見える化、冊子を活用して広がった助け合い活動の取組を報告する。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 実施団体の活動に対する思いの実践の見える化
- 実施団体の活動へのモチベーションの維持・向上
- 区内の助け合い活動を充実させるための支援



## 取組の背景・課題

これまでの安佐南区域協議体では、助け合い活動に先駆的に取り組まれている区内8つの住民主体型サービス実施団体と活動に関する情報共有、助け合い活動の充実に向けて協議を重ねてきた。協議をする中で、参画者から「助け合い活動をもっと広めたい」「住民主体型サービスを実施する団体を増やしていきたい」などの意見があった。

区内には25地区社協があるが、すべての地区の助け合い活動が充実しているとは言い難く、今後、生活支援活動に力を入れていきたいと考えておられる地区も把握していた。



## 取組の目的・ねらい

- 住民主体型サービス実施団体紹介冊子を作成し、活動に対する思いや実践を見える化する。
- これまでの成果をカタチにすることで、実施団体のモチベーションを維持・向上させる。
- 冊子を活用し、区内の助け合い活動をより充実させる。また、区内で助け合いに力を入れていきたい団体の後押しをする。



## 内容・プロセス

<冊子完成まで>

- 令和4年 9月 区域協議体において、実施団体紹介冊子を作成することが決定。  
10月 各実施団体を訪問し、活動の工夫や団体の自慢について聞き取り。  
日頃から連携して活動している実施団体の圏域包括からもコメントをいただいた。  
1月 冊子完成。
- 令和5年 2月 区域協議体において、冊子のお披露目。

安佐南区住民主体型  
生活支援訪問サービス  
団体紹介



完成した冊子！  
実施団体の思いが  
詰まっています🌟

## &lt;冊子の活用&gt;

- 古市学区社協住民主体型サービス参画の後押しとして
  - ・令和5年4月 学区社協から相談
  - ・冊子を活用し区内の団体の紹介や、古市学区での状況を共有
  - ・令和5年7月 住民主体型サービス申請
  - ・令和5年10月 住民主体型サービス実施団体として、活動スタート。
- 助け合い活動の活性化のきっかけとして
  - 地区社協訪問、地域福祉推進員連絡会議、ボランティア会議等にて冊子を用いて助け合い活動の実践事例を紹介。
  - その後、関心を持たれたいくつかの学区で活性化の会議開催やニーズ把握のアンケート実施に至る。



相談者に寄り添い丁寧な対応を心掛けています！

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 冊子の作成をきっかけに各実施団体に聞き取りを行うことで、活動を振り返る機会となった。また、実施団体とSCの関係性もより密になり、団体の思いに沿った支援、活動のつながりができるようになった。
- 実施団体としては、自分たちの活動が見えるカタチになったことで、モチベーションアップにつながった。
- 冊子を活用して、区内の助け合い活動を説明することができるようになり、ボランティアバンク、協同労働、住民主体型サービス等、様々な助け合い活動を知っていただくことができた。そのことにより、地域の実情に沿った助け合い活動の仕組みの選択肢を検討する機会となった。
- また、助け合い活動に関心のある団体に対して活動をスタートさせる後押しがスムーズになった。その結果、学区社協ボランティアバンクの再構築や住民主体型サービス実施団体が増えることにもつながった。

## 今後の展望など

- 住民主体型サービス実施団体も増えたため、数年おきに冊子を更新し、引き続き活動の見える化に取り組む。
- ほかにも、ボランティアバンクの再構築に向けて、話し合いを進めている学区がある。冊子をツールに、今後さらに助け合い活動の輪を広げていきたい。



## 生活支援コーディネーターの思い

実施団体の思いが詰まった冊子をご覧になりたい方は安佐南区社協へご連絡ください。

この冊子を活用し、それぞれの地域にあった助け合い活動を広げていきます。引き続きよろしくお願いたします！

角田

# 安佐北区社会福祉協議会

## 安佐北区区域協議体「ケア」を世の光に！プロジェクト 介護講演会 地域でつながる介護のわ ～ひとりじゃないよ～ 実施の取組

### 事例概要

「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに据え、「ケア」を世の光に！プロジェクトと題し、令和5年度から令和7年度にかけて継続的に事業を実施する予定である。令和5年度は同プロジェクトを実施していくための取組の一つとして、介護者を対象とした介護講演会を実施した。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 区域協議体参画メンバーと一緒に、対象となる方へ情報を届けるにはどうしたらよいか、実施に向けた企画、調整を行い、実行に向けて準備を進める。

## 取組の背景・課題

- 令和3年4月に亀山地域で発生した老々介護夫婦の事件を契機として、令和3年度から安佐北区区域協議体において、「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに、社会に向けて正しい情報に基づく介護の啓発を目指していきながら、そのための前提条件として「老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくり」に向けた取組について検討してきた。
- 令和4年度までの企画段階のイベントが多岐に渡っていたため、その中から「介護者」、「介護者の家族」、「地域住民」の対象別に組み分けた。今年度は、介護を必要としている当事者と介護者が孤立しない・させない地域に向けた土台（環境）の足場を固める第一歩として、安佐北区内で在宅介護をしている方を参加対象とした講演会及び個別相談会・座談会を開催することとした。

## 取組の目的・ねらい

- 介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の開催目的
  - ・ 介護者が「助けて」と言える大切さ、身の回りにどんな福祉サービスや支援団体があるのかを知ってもらうこと。
  - ・ 気軽に語り、相談できるような場にする。



区域協議体の様子

各関係機関先、協議体参画団体によるチラシの配布やHP掲載等の広報活動

介護講演会のタイトル名や広報の在り方をグループワークにて意見抽出中

### 地域でつながる介護のわ ～ひとりじゃないよ～

日 時 令和5年 11月18日(土) 13:30～15:45  
会 場 安佐北区総合福祉センター6階  
(安佐北区可部3丁目19-2)

#### 第1部 1. 基調講演

13:30  
15:05  
「助けて！」と言えたら、責めるには、  
講師 野村 紗子 氏 (社会福祉法人 亀山会 理事長、亀山会代表・公益代表)  
誰もが介護者になる可能性があります。我が事として介護について考えてみましょう。  
2. 介護の体験談  
介護を経験されたご本人の方から、実際の思いなどをお話いただきます。

#### 第2部 個別相談会 もしくは 座談会

15:15  
15:45  
※個別相談会実施しますので、いずれかの参加となります。  
●個別相談会  
介護のこと、認知症のことなど専門スタッフが個別対応いたします。(15分単位)  
●座談会  
一介のイベントをもつて、介護者の悩みや不安を共有し、互いに支え合える場を創ります。思い思いの悩みをお話をお聞かせください。

対 象 安佐区内在住で、高齢者を介護している家族の方等

定 員 60名(下記までお申し込みください) ※先着順

お申込 ①氏名 ②住所 ③電話番号 ④個別相談会/座談会の参加有無を電話、FAX、メールいずれかにて下記までご連絡ください。

お申込先 広島市安佐北区社会福祉協議会 10月20日(金)〆切

電話：082-814-0811

FAX：082-814-1895

mail: kita@shakyo-hiroshima-city.or.jp

主 催 安佐北区区域協議体 協 力 安佐北区認知症の人と家族の会 安佐北ケアメンの会

介護講演会のチラシ



# 内容・プロセス

## 1 取組の経過 ※令和5年度の主な経過を掲載

月日	主な出来事	内容や決定事項等
5月22日	第1回区域協議体担当者等会議	第1回区域協議体における令和5年度の事業内容の段階的な事業の実施の確認。
5月30日	令和5年度第1回区域協議体	区域協議体やプロジェクトの理念の情報共有。取組の方向性・焦点の情報共有。介護講演会の開催日決定。
7月21日	第2回区域協議体担当者等会議	第2回区域協議体における介護講演会の詳細の情報共有とグループワークの担当者の役割確認。
8月22日	令和5年度第2回区域協議体	介護講演会スケジュールの確認と各参画団体が担える役割の確認。介護講演会のタイトル名・広報の在り方をグループワークにて意見抽出。
10月2日	第3回区域協議体担当者等会議	申し込み状況の共有、介護講演会当日のスケジュール及び役割の確認。
10月24日	令和5年度第3回区域協議体	講演会当日のスケジュール及び役割の最終確認。
11月18日	介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の開催	基調講演、介護体験談の発表、個別相談会、座談会、情報コーナー、等の介護講演会実施。

## 2 介護講演会「地域でつながる介護のわ～ひとりじゃないよ～」の内容等について

### ● 内 容

#### 第1部

##### ◇基調講演

「『助けて!』と言えたなら。言えるには。」  
外部講師による在宅介護の現状や介護者が抱えている問題「助けて」と言える大切さ、どんな支援の場があるか。

##### ◇介護の体験談

介護経験者2名による介護に至った経緯、介護の苦勞、悩み、介護を経験して伝えたいことを発表。

#### 第2部

##### ◇個別相談会

介護のこと、認知症のことなど専門職が個別相談。(1組15分程度)

##### ◇座談会

①講演会に参加した感想②介護における不安・不満等③介護体験談発表者への質問。  
※個別相談会、座談会とも事前申込制による参加で、同時刻に実施。

##### ◇情報コーナー

高齢者支援に関わる支援団体等のチラシやパンフレットを会場内にブースを設け紹介。

### ● 対象

安佐北区内在住で、高齢者を介護している方等。

参加者 36 名



基調講演の様子

2会場に分かれて実施

座談会の様子



「語らい・つどいの場」、  
「制度・サービス」ごとに  
設置。



情報コーナー

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 介護講演会の申込対象者は、高齢者を介護している方としたが、対象者が狭まっているだけに、不特定多数へのチラシの配布だけでは集まらなかった。
- 介護講演会後のアンケート結果から、参加者の約3割が実際に介護をしている方であり、この介護講演会を機に地域の団体が主催する「認知症の人と家族の会」とつながる方もいた。

## 今後の展望など

- 介護講演会を開催するにあたり、多くの介護者に参加していただくことは大切だが、参加だけで地域につながらなければ、孤立したままになるのではないかと。今後は介護者だけでなく、地域住民や社会全体(子どもから高齢者に至るまで)に対して、家族介護、老々介護に関する情報を提供することで、理解の促進や孤立しない・させない地域に向けた土台(環境)づくりを進めていきたい。



### 生活支援コーディネーターの思い

「当事者と介護者が孤立しない・させない地域づくり」に向けて、第一歩である介護講演会が終わりました。次年度も介護講演会を更に強化していった方がいいのか、それとも介護講演会の内容を抜本的に見直すか、はたまた各地域単位での介護の勉強会等に方向性をシフトした方が介護者にとって効果的なのではないか等、アプローチの方法を協議体参画団体のみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。

山下

# 佐伯区社会福祉協議会

## 佐伯区区域協議体

～困りごと支援における“あったらいいな”を共有・実現～

### 事例概要

令和5年度から佐伯区区域協議体では、“佐伯区の困りごと支援の見える化及び充実”をテーマに掲げ、①助け合いサミットの開催、②佐伯区高齢者にやさしいお役立ち情報誌の更新に取り組んでいる。

これらの取組は、既存の社会資源を整理・共有することで、改めて“それぞれの困りごと支援の社会資源同士がつながり合うきっかけづくり”と“不足する社会資源の見極め、必要な社会資源の創出”にもつながる。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域住民の“あったらいいな（課題意識）”と専門職の“あったらいいな（課題意識）”を見える化し、協働して推進できる場づくりを行う。



## 取組の背景・課題

- 背景 担当職員(SC)の異動や区社協事務局としても人員の大きな変化があり、区域の社会資源について、改めて整理する必要があった。また、コロナ禍の影響もあり、区域協議体の推進が低調であった。そこで、これまでの取組を整理し、改めて生活支援体制整備関連(主に社会資源の共有等)について、聞き取り・意見交換することで状況把握に努めた。
- 見えてきた課題 下記の課題から①・③について令和5年度の区域協議体で取り組んでいくこととなった。

①

主に第1層  
協議体から

地域の助け合い活動の見える化及び創出

- ✓ 区域で困りごと支援を無償で行う「さえきふれ愛グループ」が大活躍中。そのため、地区社協ボランティアバンクでの個別支援の活動が広がっていない!?
- ✓ 困りごと支援に関心のある地域があっても、横のつながりを広げる場が少なく、助け合い活動が広がっていない。

②

主に第2層  
協議体から

見守り関連における企業との連携のあり方

ゆるやかな見守りのあり方  
(気にかける意識の醸成)

- ✓ 子ども食堂への食材寄付等で地域貢献する企業は多いが、見守りや認知症サポーター養成講座等の高齢者部門との結び付きが弱い。
- ✓ 高齢者地域支え合い事業での地域の見守りが主流となり、登録以外の見守りの推進に地域ごとに格差がある。

③

専門職のつばやきから

お役立ち情報誌※の更新

- ✓ せっかくの情報誌が長い間更新されていない。(作成元や地域、専門職への聞き取りでも、更新ニーズはとても高い!)
- ✓ 更新されていない間に、各関係機関がそれぞれにマップやリストを作成しているが、バラバラにあるため把握しづらい。

※お役立ち情報誌とは・・・  
佐伯区内のあらゆる生活支援に関する情報を掲載。(最終更新:H28年度)  
作成は佐伯区まちづくり百人委員会  
幸齢者部会(住民有志の組織)。



## 取組の目的・ねらい

- 助け合い活動等の共有・見える化  
(1)地域の困りごと支援の状況共有、(2)困りごと支援の担い手のスキルアップ、(3)社会資源の共有(見える化)
  - 「社会資源の整理・見える化」は、重層的支援体制整備事業の準備をしていく上でも重要!!
- 各関係機関での社会資源についての共通認識の形成を図る。



## 内容・プロセス

令和5年 4月～6月	これまでの区域協議体の展開や今後の展開について、改めて包括と個別協議。併わせて、高齢者地域 支え合い事業担当者会議等で担当者の課題意識(つばやき含む)について聞き取り、共有する。
6月	令和5年度第1回地区社協会長・地域福祉推進委員・事務局等合同会議及び佐伯区包括連絡会議に て、令和5年度からの区域協議体の展開案について説明・合意形成。(ワーキング 扱い)
7月11日	佐伯区まちづくり百人委員会幸齢者部会に参画し、高齢者にやさしいお役立ち情報誌の更新及び今 後の展開について合意形成。(更新部会を立ち上げ、区域協議体の分科会として展開することなど)
8月18日	包括連絡会にて、改めて令和5年度からの区域協議体の展開(助け合いサミット・情報誌更新の2本 柱、今年度のゴールなど)について、説明・合意形成。(ワーキング 扱い)
8月22日	第1回佐伯区お役立ち情報誌更新部会(区域協議体分科会) の開催。これまでの経緯や更新項目について共有。 更新についての共通認識の形成を行う。
9月12日	佐伯区まちづくり百人委員会幸齢者部会にて、進捗の報告・展開の相談。
10月17日	第2回佐伯区お役立ち情報誌更新部会(区域協議体分科会)の開催。掲載項目、企業等への聞き取り 項目などについて協議。
12月14日	第1回佐伯区助け合いサミット開催(地域の困りごとの共有・つながる場)。



### 現時点での到達点 (結果・効果など)

- お役立ち情報誌更新:地域住民の代表である佐伯区まちづくり百人委員会幸齢者部会メンバーと専門職が協働して、お役立ち情報誌の更新をすることで、区域全体の“あったらいいな”の実現につながっている。
- 助け合いサミット:佐伯区の困りごと支援の現在地の共有ができたことで、自身の地区での困りごと支援の実践について必要性に気づいてもらうことができた。

### 今後の展望など

- 引き続き協議体の推進と合わせ、部会メンバー等の意見を基に情報誌の更新及び地域の困りごと支援に関する情報を共有していく。
- 情報誌の更新で満足せず、より多くの地域住民に見てもらい、有効に活用してもらうために、ICTの活用のための研修会の開催等を検討していく。



#### 生活支援コーディネーターの思い

地域住民の“あったらいいな”と専門職の“あったらいいな”の最大公約数を考え、実現にむけてアプローチすることで、地域の「支え合い」と専門職による「ケア」を近づけていく。両者がうまく混ざり合っていくことが生活支援体制整備!!

箱崎

# 安佐南区社会福祉協議会

## ボランティアバンク再構築プロジェクト会議 緑井学区社協『お助け隊』 始動！

### 事例概要

従来のボランティアバンクの活動を振り返り、今後のあり方を考える「ボランティアバンク再構築プロジェクト会議」を開催。協議を重ね、個別の困りごとへも対応していく「緑井学区社協『お助け隊』」の立上げ経過を紹介する。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域の課題や困りごとの抽出、地域のみなさんが取り組んでいきたいことを一緒に検討。
- 他地域の助け合い活動について実践例や運営方法の情報共有。
- 既に助け合い活動を行っている地域との意見交換の場づくり。

## 取組の背景・課題

緑井学区社協は JR 可部線「緑井駅」のすぐそばに学区社協活動拠点窓口である駅前サロンを開設している。地域の役員や拠点スタッフが常駐し、地域住民をはじめ駅や近隣のスーパー利用者が気軽に立ち寄り、ことのできる場所となっている。

緑井学区社協のボランティアバンクでは、清掃活動や行事支援、地域猫活動等まちづくりに関わる取組を行ってきた。

しかし、「地域には暮らしの中のちょっとした困りごとを抱えている方がいるのではないか」、「ボランティアバンクを活性化したい！」という思いから、緑井学区社協ボランティアバンクの体制や取組内容を振り返ろうと令和 5 年5月、「ボランティアバンク再構築プロジェクト会議」を発足。当初のプロジェクトメンバーは、学区社協 4 名と城山北・城南包括だったが、そこに区社協、地域支えあい課も参画し、協議を進めている。



駅前サロン入口には  
かわいいお花も♪  
これもボランティアさんが  
お世話してくださっています

## 取組の目的・ねらい

- これまでボランティアバンクで取り組んできた活動によりできたつながりを再確認すること。
- 改めて地域の困りごとを考える、把握していくこと。
- ボランティアバンクのこれからの在り方について多様な意見を共有し、緑井学区のみなさんにとってよりよいカタチを模索すること。
- 各地域で行われている助け合い活動を他地域に展開する、また推進していくこと。



<会議の様子>  
“どんなチラシが  
いいかねえ”



# 内容・プロセス

	月日	内 容
①	令和5年 5月29日	・ 緑井学区社協ボランティアバンクの活動、地域の困りごとについて意見出し ・ 住民主体型サービス事業説明
②	7月19日	・ 安東学区社協(住民主体型サービス実施団体)を訪問、情報交換
③	8月8日	・ 安東学区社協訪問後の振り返り ・ 緑井学区社協ボランティアバンクの今後について協議 →名称:「お助け隊」に決定! ニーズ調査は?/活動者募集は?/活動内容・範囲は?/ VCO は? など
④	8月21日	・ 既存の活動者への継続意思確認、VCO 登録について協議し、意向等確認実施
⑤	9月26日	・ 意向等確認結果の共有 ・ 緑井学区社協お助け隊の仕組づくりについて協議 →料金及びその分配は?/活動者・VCO の役割と作業内容の流れは?/ 活動者・VCO の研修は? など
⑥	10月17日	・ 緑井学区社協お助け隊広報チラシ・周知方法について意見出し ・ お助け隊員・VCO への説明会及び発会式について意見出し
⑦	11月7日	・ 広報・周知、説明会・発会式について意見出し ・ 緑井学区社協お助け隊の今後について →活動計画・予算は?/お助け隊員の募集・町内会未加入世帯への拡大は? など
⑧	12月5日	・ 広報・周知、説明会・発会式(12月17日予定)について意見出し
⋮		⋮

<会議の様子>  
“今後どんなふう  
にやっという?”



## 現時点での到達点 (結果・効果など)

- お助け隊員及び VCO の意向確認ができ、仕組づくりについてみなさんで意見を出し合い方向性を決定することができた。
- 地域で気にかけて、助け合う活動について希望や疑問点などみなさんの思いを聞くことのできる場になっている。



## 今後の展望など

- 活動を実践する中でのよかったことや困りごとをお助け隊の中で共有し、一緒によりよいカタチを考える。また必要に応じて研修会等開催する。
- 活動を実践しながら、継続して地域の困りごとの把握を行う。
- 助け合い活動に取り組んでいる地域、関心のある地域等が交流する機会を持つ。  
また、みなさんの取組を周知し、身近なつながりづくりや助け合い活動を広めていく。



### 生活支援コーディネーターの思い

地域みなさんと専門職が協働し、困りごとや地域での助け合いへの思いを話し合うことのできる場になっています。今後活動する中で出てくる悩みを一緒に考え、活動する方々、地域の方々みなさんが“ほっ”とできる暮らしにつながるよう、引き続きいろいろなアイデアを出し合い、相談し合えばと思います。

尾田

## 住民主体型サービスに関する 連携の円滑化に向けた取組

### 事例概要

#### 1. 研修会兼交流会開催に向けての取組

地域性を鑑み、安佐北区内の団体同士で交流することとし、より有効な意見交換ができる機会となるよう企画を進める。

#### 2. 実施団体・包括・区社協の三者連携

日頃の業務の円滑化に向け、合同会議を実施。互いに事業理解が深まったことにより、連携促進につながった。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 定期訪問で実施団体の声を聞き、企画に反映させることで効果的なフォローアップの機会をつくる。
- 包括との連携の円滑化を図る。



## 取組の背景・課題

#### 1. 研修会開催に向けて

毎月の定期訪問においてヒヤリハットを聞き取る中で、支援内容は屋外での作業や送迎・付き添いが多いことが分かった。また、中山間地を含む地域性であることから、市内市街地域の状況と異なる事情を抱えているとの声があった。

#### 2. 実施団体・包括・区社協との連携の円滑化の必要性

実施団体の活動の一部が事業に該当することから、依頼受付から完了までの流れや、報告書類等について、実施団体独自の流れ・方法が確立されていた。また、日頃実施団体と関わる中で、実施団体と包括が連携不足である状況であることがわかった。

実施団体の活動の一部のみが事業に該当することの不便さや、事業対象外の利用者との区別が生じることへの不満があることを受け止めながらも、事業そのものの理解、包括との連携の必要性について改めて説明する必要があると考えた。

また、定期訪問に包括が同席した際は、現状報告を兼ねて不明なことの確認や今後の流れ、依頼内容についての動向・今後の方向性など、三者で確認することでスムーズに連携ができている事例があり、三者で集まることの効果も実感していた。



## 取組の目的・ねらい

#### 1. 研修会を安佐北区内で実施

有効な情報交換ができるよう、安佐北区内で研修会兼交流会を実施。包括にも参加していただくことで、連携の円滑化につなげる。

#### 2. 実施団体・包括・区社協の三者合同会議の実施

事業の理解、それぞれの役割について理解を深め、業務がスムーズにできるようにする。



# 内容・プロセス

## 1. 安佐北区内の実施団体による研修会兼交流会を企画

住民主体型サービス実施団体研修会兼交流会は、活動に関するリスクマネジメントについて理解を深めるため市域での実施となり、交流会においては活動内容が近い安佐北区内の団体同士の交流とする。また、包括にも参加いただくものとし、次の内容で企画中である。

【1部】研修	全体での講義「リスクマネジメントについて」
【2部】交流	安佐北会場にて交流会(グループに分かれて交流) テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自己紹介、活動中のヒヤリハット</li> <li>② ボランティアコーディネートでの見立て、下見の流れや工夫</li> <li>③ 包括との連携・協働</li> </ul>
まとめ	全体にて各会場で話したことを共有

## 2. 実施団体・包括・区社協の三者合同会議の実施

- ① 受付から支援実施までの現状の流れを聞き取る。
- ② 依頼受付から支援実施までの流れについて説明。(ケアマネジメント結果票、VCO 謝礼金の対象となる活動条件等)
- ③ 今後の依頼受付・実施及び依頼者情報の管理について確認する。

三者で改めて実情を把握し合うことができ、今後の流れについて整理することができた。

➡ 包括との連携促進へ



## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 継続して定期訪問を行い、支援の状況等について包括とともに情報交換を行っている。  
また、交流会において有意義な時間となるようなテーマの設定等、準備を進めている。
- 三者合同会議を開催後、実施団体と包括が連絡を取り合い、互いの業務がスムーズに行うことができている。実施団体・包括ともに事業理解が深まったことにより、報告・請求書類が精査され、連携促進につながった。

## 今後の展望など

- 研修会兼交流会を通じて安佐北区内の実施団体同士の交流を図ることで、団体同士の情報交換や他団体の支援方法や対応方法等を知り、新たな気づきや刺激になる。同区内で地域のために活動している仲間と会い、共感し励まし合えることの意義は大きい。日々の活動に還元できる機会を今後も作っていく。
- 三者が連携することが必要な事業であり、そのためには互いに気軽に連絡できる関係性を構築していく必要がある。今後もそういった機会を創出し、事業理解を深めることでさらに生活支援の輪を広げていく。



### 生活支援コーディネーターの思い

地域の皆様が気持ちよく活動ができるように、また、目の前のことだけに囚われず、長い目で地域のことを考え、効果的なアプローチができるようにしていきたいです。地域の皆様の大きな力をしっかり支えられるよう、日々取り組んでいきます。 岡

## 住民主体型サービス実施団体の活動に参加したことにつながったこと

### 事例概要

安芸区で住民主体型サービスを行っている団体、【阿戸地区社協「あと協力隊」】、【やのまち一寸太助共同体】、【畑賀地区社協「生活支援はたかちゃん」】のそれぞれの活動に対する想いや、地域での役割などを把握し、関係性を構築した上でSCとしてこれから何ができるかを考える。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 助け合い活動が行われている団体に聞き取り、活動に訪問・参加する。
- 助け合い活動に参加し気づいたこと、必要だと感じたことを今後に生かす。

### 取組の背景・課題

実施団体の活動実績は毎月の書類にて報告があるが、実際にどのような活動をされているのか、活動の実態や想い、自主活動については知らないままであった。実施団体の助け合い活動の実態について把握できていないところが課題と感じ、実際に活動に参加できたらと考えた。

### 取組の目的・ねらい

- 実施団体が地域の中で担う役割について理解する。
- 実施団体に対してSCとしてどう関わることができるか考える。

### 内容・プロセス

- 阿戸地区協「あと協力隊」

令和5年7月21日 庭の草刈りの依頼

VCOから、困っている人がいたら地域で助けること、顔の見える関係性で地域の困りごとを地域で解決すると話されていた。普段は関わることのないボランティアの方とも関係性を構築することができ、あと協力隊が地域の方の依頼にどこまで対応しているのか学ぶ機会となった。

- やのまち一寸太助共同体

令和5年8月9日 庭の剪定の依頼

元気な高齢者が、高齢者を始めとする弱者でお困りの方々に対し、できることを行うという助け合いの精神を大事にされ活動を行っておられた。

利用者は地域の方に作業をしてもらうことを喜んでおられ、小さな困りごとだが、少し手伝ってもらうことで生活しやすくなったり、気持ちのよい生活が送ることができるという場面を見ることができた。



あと協力隊



やのまち一寸太助共同体

## ●畑賀地区社会福祉協議会「生活支援はたかちゃん」

令和5年10月20日 庭の草取りの依頼

ボランティアの方々がそれぞれ一人暮らしの利用者に積極的に声をかけコミュニケーションを取っておられた。実施団体は以前アンケートを取り、地域の介護保険ではカバーできない困りごとに対応できるような仕組みをつくっていた。また、ボランティアの方とSCがコミュニケーションを取る機会になり、どのような方がボランティアとして登録されているか知ることができた。



## 現時点での到達点（結果・効果など）

## ●安芸区内3つの実施団体の活動に参加してみ

実際に活動に参加することでボランティアの方とコミュニケーションをとることができ、つながりをつくることのできた。報告事務だけでは登録名簿しか見ることができず、どのような方が地域の助け合い活動を実施されているのか普段関わるのが全くなかったとその時に初めて気が付いた。VCO としか関わることができておらず、実施団体のキャパシティ把握や今後の展望など知るためにはボランティアの方とも関わることが必要になってくると感じた。また、関係性を構築することで、区社協に入った相談に対し、ボランティアの方に依頼することができるのかもしれないと感じた。

## ●活動参加後の展開

## 【ボランティアの方も参加できるような交流会を開催！】

次年度の補助金申請に向けた事務の説明に加え、安芸区内の住民主体型サービス実施団体の交流会を開くこととなった。交流会は実施団体の代表者、VCO はもちろん、ボランティアの方々が参加できるような場づくりを行った。代表者やVCO だけではなくボランティアの方と関わり、地域の人材と連携がとりやすいような関係を構築することができればと考えた。また実施団体の方々には補助金申請に係る事務について、事務を行う担当者以外の方にも聞いていただくことで、事務作業を団体内で分担できれば、担当者の負担が少しでも軽減できるのではと考えた。これについては3月末に実施する予定となる。

## 【ボランティア活動をしたい学生の相談から実施団体を紹介し、活動につながった！】

実際に活動に参加したことで、活動内容や作業が分かり、ボランティア活動の相談が入った際にどの作業ができそうか学生側にも実施団体側にも相談することができた。2月中旬に活動を実施し、高齢者だけでは大変な作業も学生が入ることで、負担が減り実施団体や依頼者は大変喜ばれた。



## 今後の展望など

- 地域の小さな困りごとが入った際に、あの人なら頼めそうというような人材を見つけたり、ボランティアの方からの意見を聞き、SCとして何ができるかを考えるような機会をこれからもつくっていかれたらと思う。

## 生活支援コーディネーターの思い

実際に活動すると本当に大変な作業であった。しかし、依頼者の方がお礼を言うてくださったたり、綺麗になったことを喜んでおられると、こちらまで嬉しくなりみなさんの笑顔が見られた。このような助け合い活動を維持していくことにはたくさんの課題があるが、私も地域の人と一緒に活動が続いていくよう何かできればと思う。津村



## SNS の活用

### ～公式 LINE で地域とつながる～

#### 事例概要

地域の方に知っていただきたい情報を伝えられるよう、SNS を活用した取組。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 今の時代にあった SNS を活用し、情報発信をする。
- 容易に連絡ができるため、安芸区社協を身近に感じてもらう。



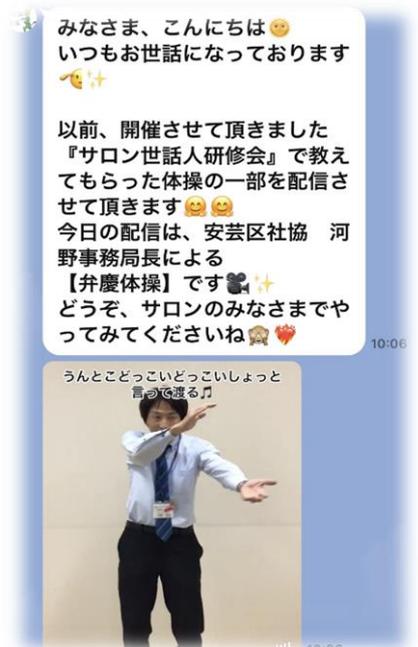
#### 取組の背景・課題

- 従来から Facebook を活用して情報発信をしてきた。しかし、Facebook を実際に使用している高齢者やサロン世話人は少なく、研修の案内や行事の報告などをしてなかなか見てほしい方へ届けることが難しい現状であった。
- サロン世話人から、「サロンのときに、簡単な体操をしたいけれど、なにをやればいいのかかわからない」と声をいただいた。
- サロン世話人にレクリエーション等を持ち帰って、サロンでやってもらいたいとの想いで「安芸区内サロン世話人研修会」を開催した。様々なレクリエーションや体操を教えてもらったが、実際にサロンでやってみる！というところまでは、なかなか実現できていなかった。



#### 取組の目的・ねらい

- スマートフォンを持つ人も増え、その中でも LINE を活用している人の割合が多かった。公式 LINE を活用することで、地区社協の方やサロン世話人など直接その方へ発信することができる。
- SNSを活用することで動画を配信することができる。研修会で学んだ簡単な体操などを動画で届けることで、実際にサロンで活用していただきやすくする。





## 内容・プロセス

令和5年10月 ○安芸区社協公式 LINE の立ち上げ

○サロン世話人・地区社協に「安芸区社協 LINE@はじめました！」のチラシを配布

○第1回配信「第19回安芸区ボランティアきっかけ講座」のお知らせ

11月 ○第2回配信「あきくボランティアまつり」のお知らせ

○第3回配信「弁慶体操」

★サロン世話人研修会で教えていただいた体操を配信

### サロン代表からの嬉しいお言葉



### 安芸区のボランティアグループのみなさん

「意外とむずがしいのお～」



### サロン世話人のみなさん

「テレビに写すのええねえ～他の動画はないの？」



## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 「自分自身案内が来ているみたいで嬉しい」「この動画、サロンでつかえるね、他の動画はないの？」など嬉しいお言葉をサロン世話人や地区社協の方からいただいた。
- 「サロンの時に、簡単な体操をしたいけれど、なにをやればいいのかかわからない」の声から「スマホを見ればいつでもやりたいときにできるね」の声に変わってきた。

## 今後の展望など

- 研修の案内など届けたい方のもとに直接送れるのが公式 LINE のよいところである。一方で Facebook は幅広く多くの方に周知できるため、よい面を工夫していきながら配信内容に応じて使い分けていきたい。

### 生活支援コーディネーターの思い

サロン訪問時に「サロンでできる体操がないかね？」と相談を受けたこと、SNS をもっと活用していきたいと考えていたことで公式 LINE を始めました。公式 LINE を通じて、情報発信をしたり安芸区社協が身近な存在だと思ってもらえるようにこれからも取り組んでいきたいと思ひます。きっかけでもあった“サロン世話人さんの声”など地域の声を大切にしていき、困ったことがあれば「まずは SC に聞いてみよう」と思ってもらえるよう、身近に感じられて相談しやすい環境をつくっていきたく思ひます。

蠣崎



## サロン講師一覧表作成について ～サロンのお役立ち情報誌作成に向けて～

### 事例概要

サロン世話人向けの、佐伯区版の講師一覧表がなかったことから、今年度新たに作成・配布に取り組んだ。包括の協力により佐伯区独自の講師も掲載することで、オリジナル性を持たせ、佐伯区民が有効活用できるようにした。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域高齢者交流サロン運営事業・地域介護予防拠点整備促進事業実施団体及びふれあいいきいきサロン等の地域の団体への後方支援。
- 地域と専門職との関係形成・つながりづくり。

## 取組の背景・課題

佐伯区では、サロン講師一覧表がなく、あるのは貸出用福祉機材一覧のみで、区社協に相談があった時に分かりやすい資料を提供することが難しかった。

実際に、サロン訪問時にサロンの内容をどうやって決めているのかお尋ねすると、「内容を考えるのに苦慮している」「同じ内容の繰り返しでマンネリ化している」等の声が聞かれることもあった。

そのため、区社協としてサロン講師の情報一覧を作成することで<見える化>を図り、広報することでこういった悩みを解決できる一つのツールとして活用していただくことができると考えた。

## 取組の目的・ねらい

- サロンのマンネリ化解消や世話人の負担軽減。
- 地域と区社協の更なる関係の強化。
- 企業や地域団体とのパイプづくり。
- 第1層 SC として、区内の情報を把握し、<見える化>する。
- 冊子に QR コードを載せることによって、各団体が直接問合せできるようにする。





## 内容・プロセス

- 令和5年 5月 サロン世話人の A さんから、「サロンに来てくれる講師を知りたい」と区社協に相談があった。事務所内にあった講師派遣についての情報を提供。  
相談終了後、事務所にて情報共有を行う。佐伯区版のサロン講師一覧表が作成されていなかったことから、地域の方が一目で分かりやすく情報を得られるよう、作成に向けて取り組むこととなった。
- 令和5年 6月 サロン講師一覧表の作成開始。他区の講師一覧表を参考にしながら様式を検討。  
佐伯区オリジナルを出すために、区内 6 包括にも協力いただき、おすすめ講師を教えてください。
- 令和5年 7月 掲載予定団体に掲載許可をいただく。また、内容についても検討を重ね、併せてボランティアグループや貸出用福祉機材一覧も掲載することとした。
- 令和5年 8月 区域協議体にて「高齢者にやさしいお役立ち情報誌～佐伯区ですずっと暮らしていくために～」の更新にも取り組んでいることから、関連して題名を『サロンのお役立ち情報誌』に決定。
- 令和5年 9月 サロンのお役立ち情報誌第 1 版完成。
- 令和5年10月 正副会長会議・佐伯区包括連絡会議にて完成報告。
- 令和5年11月 “ささえあい”(さえき社協だより No.122)に冊子完成情報を掲載。  
サロン関係団体、地区社協関係者、関係機関等へ配布。

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 約580部配布。実際にサロンのお役立ち情報誌を見て、依頼したいと考えてくださる団体もいっしょり、改めてサロンに真剣に取り組んでおられる方がたくさんいることを実感することができた。
- “ささえあい”を見て、問合せや来所し配布を求める方もおられ、地域の方のニーズの高さと反響の大きさを実感している。
- 地区社協関係者・関係機関からいろんなサロン等へ配布したいとの嬉しいお言葉もいただくことができた。

『サロンのお役立ち情報誌～サロンに呼べる講師一覧「佐伯区版」～』が完成しました！

サロン世話人さんからの「次のサロンの活動内容どうしよう…」という悩みの声をきっかけに、サロンに来ていただける講師の情報(企業・団体・個人等)をまとめた冊子を作りました。

健康講座や防犯講座、スマホ講座等様々な役立つ情報を掲載しております。サロンのマンネリ化解消にもおすすめです。

情報誌について知りたい・配布を希望される等の場合は、区社協にお問合せください。

サロンのお役立ち情報誌についての問合せ  
佐伯区社会福祉協議会 082-921-3113

ささえあい広報誌(No.122)にてPRを行いました！

## 今後の展望など

- 数年おきの情報更新。
- サロン講師一覧表が活用できるよう、サロン世話人の研修会等でのレクリエーション講座の開催。



## 生活支援コーディネーターの思い

地域のみなさんは、日々活動について悩みながらも前向きに活動をされています。冊子を見て、少しでも地域の方の悩みの軽減や新しい取組への意欲が湧くようなサポートができればよいなと思っています。

前田

## 中区社会福祉協議会

# 地域特性を生かした高齢者の見守り強化に向けた取組 ～白島いきいきシールキャンペーン～

### 事例概要

地域における高齢者の見守り強化に向け、白島地区社協と幟町包括と連携して取り組んだ事業。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域団体連携支援基金の活用に伴う支援。
- 白島地区内外への広報・周知活動。
- 「白島いきいきシールキャンペーン」の定例会議への出席と助言。



## 取組の背景・課題

コロナ禍で通いの場や地域行事の中止、高齢者の外出機会の減少により地域内のつながりが希薄になった。それらの影響で、“地域での見守り活動の限界”と“地域とつながりのない高齢者の孤立”が「白島気くばりネット※運営委員会」の中で課題としてあがった。※白島地区における高齢者の見守りネットワーク



## 取組の目的・ねらい

- 白島地区在住の高齢者の外出機会と交流機会の促進。
- 地域住民(町内会未加入者も含む)への「白島気くばりネット」の活動の周知と登録者の増加。
- 白島地区の地域特性を生かした見守り体制の構築。



## 内容・プロセス

コロナ禍の状況で、どうすれば課題を解決できるか、「白島気くばりネット運営委員会」において協議を行った。「日々の買い物であれば外出するのではないか」、「白島地区には多くの商店がある。地域とつながりのない高齢者もお店には行くだろう。商店会に協力してもらうことで、見守りの目を増やせるのではないか」というアイデアが出された。

アイデアを実現していくために、白島地区社協、幟町包括と協議を重ねた結果、「白島いきいきシールキャンペーン」(以下、「キャンペーン」という。)と銘打ち、取組を実施していくこととした。

「ヤクルト山陽」から、地域活動の会場として営業所を貸出すという話をいただき、キャンペーンについて説明。企業として高齢者の見守りに力を入れていきたいとの思いがあることが分かり、キャンペーンに協力してもらえることとなった。

ノベルティ交換場所について、地域に気軽に相談できる場所があることを地域住民に知ってもらいたいという思いから、白島地区社協活動拠点(事務所)、白島地区老人クラブ連合会が実施している住民主体型サー

ビスの相談窓口、幟町包括を設定。また、ヤクルト山陽白島センターも交換場所に設定し、イベント終了後も引き続き地域の高齢者を見守ってほしいという思いを込めた。

さらに、地域の困りごとを把握するために、シール台紙に困りごと記入欄を設けるなどの工夫も行った。

- 令和3年7月～ キャンペーンの前身でもある、高齢者複数人で店を訪れてチケットを集めるという企画案が白島気くばりネット運営委員会で提案される。
- 令和4年8月～ 1年近く協議を重ねた結果、チケット制からシール制に変更し、正式名を「白島いきいきシールキャンペーン」と名付ける。
- 令和4年12月 キャンペーンに係る財源確保のため、地域団体連携支援基金の申請を提案。申請することが決定し、申請に係る書類作成支援等を行う。  
令和5年4月からのスタートを目標とする。
- 令和5年8月～ 細かいルール決めやノベルティの調整に時間がかかり、当初目標から4か月遅れで事業がスタート。月に1度、関係者で定例会議を開き、キャンペーンについての情報交換や交流会の打合せなどを実施。定例会議では、地域団体連携支援基金の用途に関する助言をし、各種広報誌への掲載調整も行った。
- 令和5年10月～ 地域住民の交流を目的とした白島気くばりネットの交流会を地区内4ブロックに分けて順次開催。防災の講演やヤクルト山陽の事業所を借りて、ヤクルトで行っている健康講座を行うなど、4ブロックそれぞれの地域特性を活かした交流会を開催。
- 令和6年2月 キャンペーンの終了(予定)。



## 現時点での到達点（結果・効果など）

- わずかではあるが、新たに白島気くばりネットにつながった事例があり、地域内での周知ができた。
- 交流会では会場によって人数のばらつきがあったものの、数十名の方が参加し、住民同士の交流を図ることができた。
- シール台紙に書いていただいた困りごとは、適切な機関につなぐ等の対応ができた。

## 今後の展望など

- 令和5年度末に、協力店も含めてキャンペーンの効果測定を実施する。
- 次年度以降のキャンペーンの実施については財源も含め、白島地区社協、幟町包括と協議する。
- 地域団体が引き続き相談窓口を開設し、より幅広い相談が受けられるように支援していく。



### 生活支援コーディネーターの思い

これまでにない取組でどう転ぶか分かりませんでした。一定の成果はあったと思います。これからも地域の要望に合わせてコーディネートしていきます。

島谷

高校生とお喋りしながら悩みを解決！

### 【Dボラ】スマホ相談会

～多世代交流から生まれる「相互理解」の地域づくり～

#### 事例概要

『第一学院高等学校 広島キャンパス』の先生から「様々な経緯で通信制高校に入学してきた生徒たちが地域社会と交流することで、親や同世代以外の多様な人との関わりや経験を増やし、視野を広く持てるようになってほしい」とボランティア活動について相談を受ける。町内清掃や子育てオープンスペースでのボランティアにつなげるとともに、高齢者を対象にしたマンツーマン形式のスマホ相談会開催を提案。企画から実施まで生徒と一緒に取り組んだ。参加者からも生徒からも好評で継続開催している。

#### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- 教職員・生徒と地区社協・町内会とをつなぐ橋渡し役。
- 企画会議の連絡調整、ファシリテーション。
- 地域住民への広報活動。メディアへの情報発信。
- 区社協内での事業間連携の推進。



### 取組の背景・課題

- 日頃、SCが地域の高齢者と関わる中で「LINE の使い方がよくわからない」「前の画面に戻るにはどうしたらいい？」など、「スマホを持っているがうまく使いこなせない」という悩みを多くの方から聞いていた。包括と協力してスマホ教室を開催したこともあるが、つまずくポイントや教えてほしいことは人それぞれで、講義形式の内容では参加者個々のニーズに応えきれないという課題を感じていた。
- 他の自治体では、高校生・大学生が高齢者等にスマホの使い方を教える取組を実施されているところがあり、「東区でも同様の取組ができないか」と、かねてから検討していた。



### 取組の目的・ねらい

- 生徒がマンツーマン対応をすることで、参加者それぞれのスマホの悩みごとをしっかりと解決する。
- 第一学院高等学校の生徒たちが、年齢の離れた参加者とコミュニケーションを図ることで社会性を養い、社会に出てから役立つような経験を増やす。また、「老い」についての理解を深めるきっかけをつくる。
- 学校の教室を会場にすることで、地域の中にある通信制高校の存在を地域住民に知ってもらう。また、そこに通う様々な生徒たちと交流することで、「多様性」について考えるきっかけをつくり、多様な人々に対する理解を啓発していく。
- 高齢者と高校生がお互いに「支えられる側」であり、「支える側」にもなれる企画を実施することで、「地域共生社会の実現」に向けた地域づくりを推進していく。
- SCと他業務の担当者が協同することで、お互いの担当業務の「重なり合う部分」を意識し、事業間連携を深めていく。



生徒たちが作ってくれたチラシ



## 内容・プロセス

- 令和5年7月** 第一学院高等学校の教職員が東区社協に来所。生徒たちのボランティア活動について相談を受ける。ボランティア・福祉教育を担当する職員とSCで対応。スマホ相談会の企画を提案。局内で協議し、SCと福祉教育担当者が連携して取り組むことが決定。

若草町内会会長等役員、尾長地区社協会長、教職員と今後の展開について協議。スマホ相談会を第一学院高等学校・尾長地区社協・東区社協の共催行事として開催することが決定。

- 令和5年8月** 第一学院高等学校のボランティア委員会の生徒たちと初回の打合せ。SCから改めて企画の趣旨を説明し、生徒たちから賛同を得る。チラシを生徒たちが作成することが決定。

- 令和5年9月** 2回目の打合せ。生徒の発案で企画の正式名称を『【Dボラ】スマホ相談会』とし、開催日程を決定。ボランティア活動や高齢者との関わりが少ない生徒が多いため、オリエンテーションを実施することになる。広報については、参加定員15名のため地区社協会長とSCで連携し、高齢者に個別に声をかけていくことにした。

生徒へのオリエンテーションを実施。福祉教育担当者から「ボランティア活動について」の講義と、「若い」についての理解を深めるため「高齢者疑似体験」を実施。

3回目の打合せ。生徒から「相談会の最後に次回の日程を告知できるとよい」との提案があり、第2回スマホ相談会を11月20日に開催することが決定。



多くの気づきが得られた高齢者疑似体験！

9月26日『第1回【Dボラ】スマホ相談会』を開催。資料や立て看板の準備から司会進行等の役割分担まで全て生徒たちが対応。参加者からは「聞きたかったことが聞けた」「若い人と話すと元気をもらえる」と、好評であった。

- 令和5年10月** 4回目の打合せ。初回の振り返りをする中で、ある生徒の「目標はテレビで紹介されること！」との発言からメディアへの情報発信をしていくことになる。若草町内の回覧板・掲示板でも広報。

SCが『第2回【Dボラ】スマホ相談会』について、市政記者クラブ宛てにメールで資料提供。

- 令和5年11月** 11月20日『第2回【Dボラ】スマホ相談会』を開催。前回参加していなかった生徒も多数参加。また、NHK広島放送局の取材が入り、当日放送の『お好みワイドひろしま』の中で紹介される。

### 現時点での到達点（結果・効果など）

- マンツーマン対応のため、参加した高齢者の個別の困りごとに対応できている。
- 生徒たちは「やってみたら楽しかった」「感謝されて嬉しかった」と、達成感・有能感を得ることができている。
- スマホ相談会の参加者が第一学院高等学校のキャンパス祭を訪れるなど、地域住民と生徒たちの関係が深まっている。
- 福祉教育担当者と連携して取り組んだことで、相互の事業理解につながった。



テレビ取材も入り大盛況だった  
第2回【Dボラ】スマホ相談会

### 今後の展望など

- 進級・卒業による生徒の入れ替わりや、担当職員の異動があっても継続していけるよう、持続可能な取組として、定着させていきたい。

#### 生活支援コーディネーターの思い

生徒たちにとっても地域住民にとっても、お互いにメリットがあり、そしてお互いに相手のことを理解し合えるような取組にしたい！と強く思い、進めてきました。人生経験豊かな参加者から「私の子も学校に行きたくない時期があったけど今は幸せに暮らしている」「人生大変な時もあるけどずっとではないよ」と生徒に温かい言葉をかけてくれている様子を見て、これからも「心の交流」を大切にしていきたいと思いました。 萩原



# 西区社会福祉協議会

己斐東学区担い手養成講座 防災と一緒に考える「つながり」活動講座

学区社協・包括・区社協で「共に協力して同じ方向を目指す」企画講座

## 事例概要

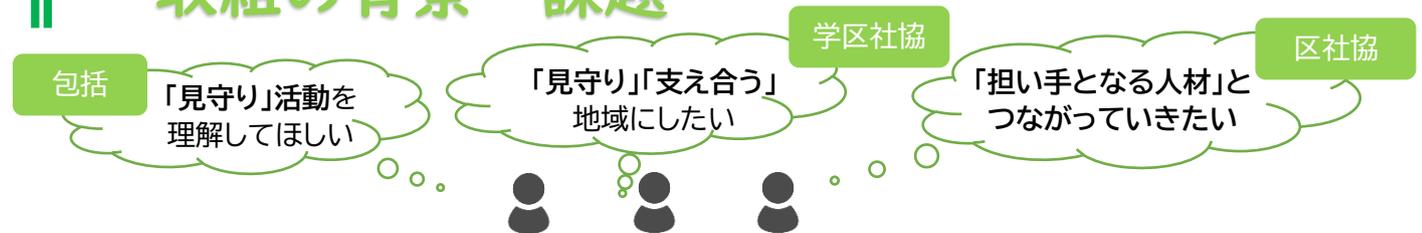
令和5年9月～11月にかけて防災と一緒に考える「つながり」活動講座を、3回連続講座として開催。実施に至るまでの経緯、協議、打合せから振り返りまで、共に企画をした事例について「講座内容」だけではなく、学区社協、包括、区社協で「楽しみながら一緒に準備をした」状況を報告する。

### 事例における生活支援コーディネーターの役割

- それぞれの「やりたいこと」を話し合う場を設け、「つなげて形にする」。
- 実現に向けて、誰を仲間に入れたら実現するのか、メンバーへ提案をする。
- 「やりたいこと」を実現するために、活用するための補助金・助成金について紹介する。



## 取組の背景・課題



令和4年11月、新任地区社協会長・地域福祉推進委員研修会にて登壇された己斐東学区社協会長の「あったかい雰囲気地域にしたい」「活動拠点をつくってきたい」という思いを聞き、「次年度の担い手養成講座は己斐東学区で提案しよう」とSCは決めていた。

令和5年1月、己斐東学区内で日頃元気に地域のお世話をされていた方が自宅で倒れ、4日経ってから発見、入院されるという事態が起きた。このことを重く受け止められた学区社協会長が「見守りを強化したい」と思いを吐露された。令和5年2月、包括訪問協議にて、令和5年度学区社協へのアプローチとして、「学区社協全サロン訪問」「新任町内会長への見守り活動の大切さの理解と啓発」「つながり講座の実施」することを目標とすることにした。



## 取組の目的・ねらい

まず包括高齢者地域支え合い事業担当者と協議し、以下を学区社協へ提案した。

- ①3回連続講座「つながり活動」の実施を提案
- ②己斐東学区内全サロン訪問
- ③地域団体連携支援基金活用し、「つながり講座」の1回を多世代交流のできる場(西区区域協議体テーマ)についての内容で企画



合計13回行った打合せ・振り返り

己斐東学区には6町内会・自治会があり、令和5年度は各町内会・自治会長が新しく就任された。そのため、高齢者地域支え合い事業に関して、一から理解していただく必要性があった。また、地域の人々が参加し、つながりをつくっていく場としてのふれあいいきいきサロンについても町内会長の方々にも知っていただきたいこと、各種団体とも交流を深めてほしいこと等を話し合った。

そのため、講座第1回目を高齢者地域支え合い事業運営委員会に充てること、第2回目を自主防災会の協力を得て防災意識を高める講座にすること、第3回目は高齢者地域支え合い事業協力員交流会を兼ねることにした。

# 内容・プロセス

令和5年2月	包括訪問協議	包括・行政 区社協	区域協議体について話し合いを行う。圏域3学区について情報やアプローチ方法について共有する。
令和5年5月	学区社協会長へ相談	包括・学区社協 区社協	包括と区社協から令和5年度講座企画を提案する。
令和5年6月	高齢者地域支え合い事業運営委員会にて学区社協会長より提案、了承を得る。		
令和5年6月～11月	包括・学区社協(会長、地域福祉推進委員)、区社協とで月1～2回ペース(全13回)で打合せ、振り返りを楽しく行う。 <u>包括と区社協で共に行ったこと</u> ・学区内全サロン訪問随時遂行。 ・企画について、「今後こうなったらいいな」を共有しながら話を進める。 ・地域連携支援基金活用「防災ジオラマを作ろう」相談、包括センター長の楽しいアイデアで、参加賞品について協議。 ・講座内容に応じて、センター長や介護予防拠点担当も協議に入る。 ・「困ったな」という点については、適宜相談しながら軌道修正を図る。 ・講座内容について、行政のアドバイスも受けながら確認・相談しながら進める。		
令和5年9月	防災と一緒に考える「つながり」活動講座①		 ※各講座については 西区社協ホームページを ご覧ください！
令和5年10月	防災と一緒に考える「つながり」活動講座②		
令和5年11月	防災と一緒に考える「つながり」活動講座③		

1回目



「防災」から見た「つながり」づくり  
ローカリズム・ラボ 井岡氏

2回目



防災ジオラマを一緒に作ってみよう  
防災ジオラマ推進ネットワーク  
上島氏

3回目



見守りネット己斐東  
協力員と共に交流しよう

## 現時点での到達点（結果・効果など）

- 講座第1回目は、防災は「**日頃からのつながりが一番大切**」というテーマで講座を進めた。アンケートでも「予防的な取組が必要」といった前向きな感想があり、つながりを大切にする講座として、初めの一歩としては大成功であった。
- サロン訪問は、包括、区社協共に「**地域は本当に様々な人がつながっている**」ことを再認識することができた。百歳体操だけでなく、ラジオ体操、趣味の会、ラウンドダンスとみなさんがいきいきと活動をされていた。包括圏域内**他地区の全サロンめぐり**も、現在包括と共に進行中である。
- 第2回目「防災ジオラマ」づくりでは、小学生の子どもたちと一緒に楽しみながら己斐東学区の地形、地理について学ぶことができた。アンケートでは『「ぼんやり」としか知らなかったことが、『はっきり』と知識、記憶として残った』という感想があった。また、この企画ができたのも**地域団体連携支援基金**を活用したおかげである。
- 第3回目「見守りネット己斐東 登録者・協力員と共に交流しよう」では、百歳体操の紹介、意見交換等行ったあと、**己斐東の未来について語る**時間も設定した。

## 今後の展望など

令和6年4月、己斐東学区社協の活動拠点開設に向けての準備を、講座企画と同時に進めている。  
地域の中に、気軽に集える場所ができることで、地域活動の理解者を増やしていき、そこに情報も集まってくることで、新たなつながりができるであろう。  
「このまちで暮らしてよかった」と思えるまちづくりのお手伝いをこれからもしていきたい。



**生活支援コーディネーターの思い**

包括と共に企画・提案し、それを受け止めてくれる地区社協があり「協同」することの楽しさを感じました。包括も区社協もやるべきミッションがあり、別々に行うのではなく、共に協力し合うことで更に大きなことができることがわかりました。  
一緒にわいわいと行った打合せ、振り返り、そして一緒に回ったサロン巡りがとても印象的でした。

**三角**

# 広島市生活支援体制整備事業広報紙 ひろしまええとこ通信

広島市社協では、令和2年度から各地域で実践されている『ええとこ』を広く紹介する『ひろしまええとこ通信』を発行しています。

地域活動の耳寄りな情報を定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指しています。

これまで発行した『ひろしまええとこ通信』は、広島市社協のホームページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。



広島市生活支援体制整備事業広報紙 第14号(令和5(2023)年11月発行)

## ひろしまええとこ通信

題字：東区「うぐいす共同作業所」山中剛範さん

広島市各区分では、様々な取り組みが実施されています。  
広島市各区分の「ええとこ」を担当生活支援コーディネーターから報告します！！

**地域のええとこ紹介コーナー「Wa!それええね!!」**

**中区：サロン研修会を開催しました!**

高齢者の誰もが気軽に集い、仲間づくりや介護予防に取り組む「通いの場」の活性化を図るため、現在28団体が「地域高齢者交流サロン・地域介護予防拠点整備促進事業補助金」を活用し、各地区で様々なサロン活動が行われています。活動のマンネリ化に頭を悩ませている運営者の声を聞きます。そこで、令和5年10月13日「サロン運営のヒント」と題して研修会を開催しました。NPO法人ひろしまレクリエーション協会の徳弘副会長と広島市江波地域包括支援センターの上田さんを講師に迎え、当日は11団体23名のサロン世話人の方々が参加されました。

はじめに中区社協から「サロン開催の意義や目的」をお話ししました。上田さんからは、「サロン活動を通じたなじみの関係づくり」についてサロンの見守り事例を交えて、サロンが「自然と見守りの場となっていること、つながりづくりの場となっていること」を教えてくださいました。

徳弘副会長からは、「レクリエーションの目的や意義」、「サロンの場でできる簡単なレクリエーション」について教えていただきました。隣の人とスキニップを取るなどして、会場は非常に盛り上がりしました。レクリエーショングッズの展示もしていただき、「自分たちのサロンにあれば楽しそう」などの声もありました。

情報交換の中で体力が低下した参加者への対応やサロン運営費の確保の話が話題になりました。各サロンでの工夫や講師の方たちからアドバイスをもらい、今後の運営について考える時間となりました。

サロンのマンネリ防止のために様々な支援を行っています。  
お気軽に中区社協までお問い合わせください!一緒に考えていきましょう!  
生活支援コーディネーター 和田・島谷

上田さんの講演の様子

徳弘副会長の講演の様子

会場の様子

広島市生活支援体制整備事業広報紙 第15号(令和6(2024)年3月発行)

## ひろしまええとこ通信

題字：東区「うぐいす共同作業所」山中剛範さん

広島市各区分では、様々な取り組みが実施されています。  
広島市各区分の「ええとこ」を担当生活支援コーディネーターから報告します!!

**地域のええとこ紹介コーナー「Wa!それええね!!」**

**「安佐北区サロン研修会・交流会」を開催しました!**

令和5年12月15日(金)に令和5年度地域高齢者交流サロン運営事業・地域介護予防拠点整備促進事業「安佐北区サロン研修会・交流会」を開催しました!  
安佐北区では、コロナ禍になってサロン研修会・交流会を実施できておらず、久しぶりの開催となりましたが、19団体31名が参加されました。

前半は研修会として、NPO法人ひろしまレクリエーション協会の徳谷裕三さんを講師に迎え、「心と身体が元気になるサロン活動を目指そう!」と題して、明日からサロン活動に役立つ簡単なレクリエーション活動の体験を交えながら、サロンの意義や役割について説明をしていただきました。講師の話術、表情、声のトーンも相まって、自然と参加者が笑顔になるような楽しい雰囲気の中での、学びとなりました。

後半は交流会として、①講師のお話を受けて、サロンで取り入れられること②他のサロンに聞いてみたいことをグループワークで意見交換し、予想以上に話が盛り上がりました。

最後に講師からの総評で、「サロン活動は生涯学習である。」

- ・S そこそそ  
100%頑張らない。
- ・M まあまあ  
全員からの100点はもらわなくても、2~3人からの100点でいい。
- ・T たのしく  
自分のものさしを大切に。  
100%を求めると燃え尽きてしまう。  
いいかげんにやることも大切で、  
自分がやっていて面白いこと。得意な分野を伸ばしてサロンを充実させてほしい。  
という「サロンのSMI」の話をしていただきました。

サロン研修会・交流会終了後、参加者から「楽しかった」「ためになった」「さっそくサロンで今日習った体験を取り入れたい」とお言葉をいただき、大変好評でした。

今後も地域のサロン活性化のため、研修会・交流会を実施していきたいと思っております!  
生活支援コーディネーター 山下・岡

徳谷 裕三さん

レクリエーションの体験の一場面

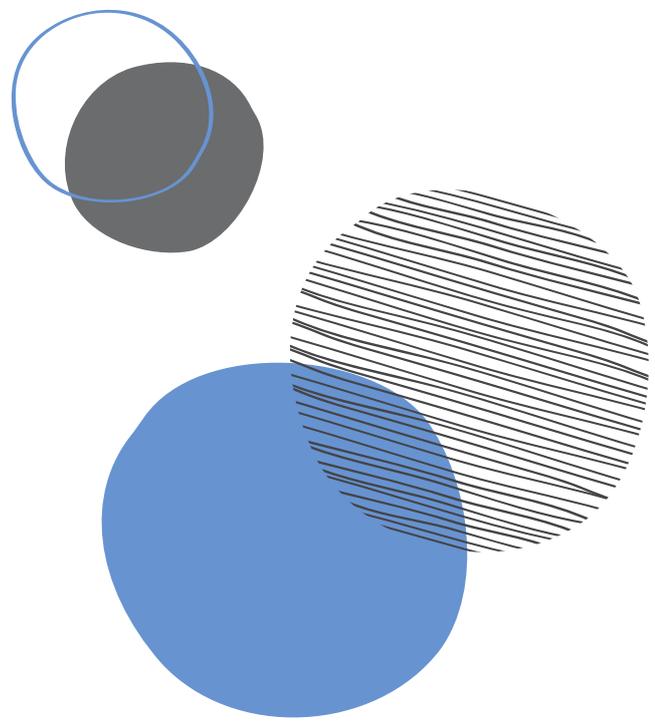
グループワークの様子



広島市社協ホームページ 広報紙・刊行物  
[https://shakyo-hiroshima.jp/koho\\_list.php](https://shakyo-hiroshima.jp/koho_list.php)







令和5年度  
広島市第1層生活支援コーディネーター実践事例集

発行者 社会福祉法人広島市社会福祉協議会  
〒732-0822 広島市南区松原町5番1号  
広島市総合福祉センター（BIG FRONTひろしま）  
TEL 082-236-6172 FAX 082-264-6413  
E-mail [kyousei@shakyohiroshima-city.or.jp](mailto:kyousei@shakyohiroshima-city.or.jp)

発行年月 令和6年3月  
発行部数 250部

